平 成 27 年 度

社会調査実習報告書

第　4　号

淑 徳 大 学
コ ミ ュ ニ テ ィ 政 策 学 部

はしがき

本報告書は、淑徳大学コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科の「社会調査実習」を履修した学生の調査研究の成果である。

コミュニティ政策学部では、専門科目（社会学分野）の教育目標に「社会事象や社会に関連する諸事実を明らかにするために、データの収集から分析にいたるまでの基礎的な事柄を理論と方法の両面から理解する」ことを据え、社会調査を学生が体系的に学習するためのカリキュラムを組んでいる。１年次前期に「社会調査論」、１年次後期に「社会調査法」、２・３年前期に「統計解析法」「社会統計学」、２・３年後期に「量的解析法」を履修する。これらの計５科目の単位を修得済みであることが、３・４年前期開講の「社会調査実習」の履修条件となっている。

「社会調査実習」は、それまでの各社会調査関連科目での学びの集大成として、研究テーマの設定から、テーマに関わる仮説および分析方法の検討、調査票の作成、実査、データの集計と解析、そして報告書による成果の公表という社会調査の一連の過程に、学生が主体となって取り組むものである。

平成 27 年度の科目担当教員は山本功と青柳涼子、社会調査助手は渡辺由希であり、履修学生は１名であった。この履修学生はすでに（一社）社会調査協会の「社会調査士資格（見込み）」の認定を得ており、この「社会調査実習」の単位修得をもって「社会調査士資格」取得に必要な科目をすべて履修済みとなる。

平成 27 年度の調査研究テーマは、「社会的つながりと自殺許容度の関連に関する調査研究」であった。自殺という現象は、19 世紀から社会学の研究対象であり、社会的なメカニズムの解明が求められていた課題ではあったが、いうまでもなく繊細な配慮が必要となる課題である。そうしたこともあり、本実習でははじめて、ネット調査を実施した。サンプリング・バイアスが存することは承知のうえで、そのことを念頭においたうえで調査を実施した。

奇しくも、本調査研究のまとめの時期である平成 28 年２月に参議院で自殺対策基本法の改正案が全会一致で可決され、３月には衆議院で審議中である。年度内に可決され翌４月から施行される見通しであるが、もし原案が可決成立すれば、第 11 条の見出しは「(調査研究等の推進及び体制の整備)」となり、第１項は「国及び地方公共団体は、…調査研究及び検証並びにその成果の活用を推進するとともに、自殺対策について、先進的な取組に関する情報その他の情報の収集、整理及び提供を行うものとする」となるはずである。

本調査は、自殺に対する人びとの許容度を測定するという、まだまだ未開拓の研究課題に挑んだのであるが、自殺に関する調査研究が今後ますます必要となっていくことが見込まれる。本調査報告書をその水先案内として役立てていただける機会があれば、望外の喜びである。

淑徳大学コミュニティ政策学部
教授　　山本　功
准教授　青柳涼子

目　　次

第１章　調査概要

佐々木裕太・山本　功

１．近年のわが国における自殺

自殺が社会問題となって久しい。1978（昭和 53）年から 1997（平成９）年までは２万人台で推移していた自殺件数が、1998（平成 10）年以降増加し、３万人台になった。2012（平成 24）年以降再び２万人台となり、減少の兆しをみせているが、依然として重要な社会問題となっている。図１－１ならびに表１－１に近年の自殺者数の推移を提示した。

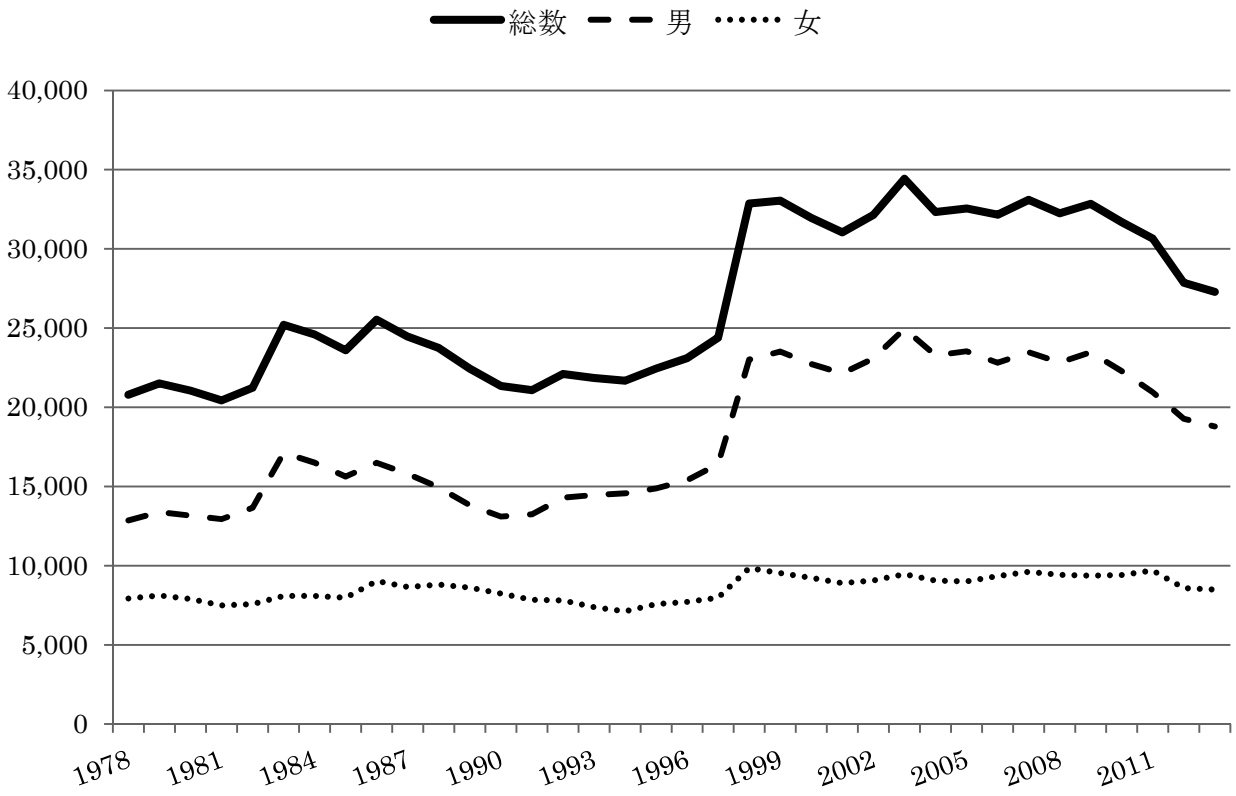


図１－１　警察庁「自殺統計」による日本における自殺者数の推移

（出典：内閣府『平成 26 年版自殺対策白書』）

こうした事態をうけ、自殺に対する総合的な対策が必要であるとして 2006（平成 18）年に自殺対策基本法が制定された。この法律の目的として第１条にはこのように掲げられている。

「この法律は、近年、我が国において自殺による死亡者数が高い水準で推移していることにかんがみ、自殺対策に関し、基本理念を定め、及び国、地方公共団体等の責務を明らかにするとともに、自殺対策の基本となる事項を定めること等により、自殺対策を総合的に推進して、自殺の防止を図り、あわせて自殺者の親族等に対する支援の充実を図り、もって国民が健康で生きがいを持って暮らすことのできる社会の実現に寄与することを目的とする。」

さらに、同法第 11 条は、「調査研究の推進等」とあり、「国及び地方公共団体は、自殺の防止等に関し、調査研究を推進し、並びに情報の収集、整理、分析及び提供を行うものとする。」と定め

られている。また、2012（平成 24）年に閣議決定された「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」においても、「実態解明のための調査の実施」がうたわれている[i]。

平成 27 年度淑徳大学コミュニティ政策学部社会調査実習は、自殺対策基本法や自殺総合対策大綱にもうたわれている自殺防止に関する調査研究の一助となるべく、設計され実施されたものである。

表１－１　警察庁「自殺統計」による日本における自殺者数の推移

年	総数	男	女
1978	20,788	12,859	7,929
1979	21,503	13,386	8,117
1980	21,048	13,155	7,893
1981	20,434	12,942	7,492
1982	21,228	13,654	7,574
1983	25,202	17,116	8,086
1984	24,596	16,508	8,088
1985	23,599	15,624	7,975
1986	25,524	16,497	9,027
1987	24,460	15,802	8,658
1988	23,742	14,934	8,808
1989	22,436	13,818	8,618
1990	21,346	13,102	8,244
1991	21,084	13,242	7,842
1992	22,104	14,296	7,808
1993	21,851	14,468	7,383
1994	21,679	14,560	7,119
1995	22,445	14,874	7,571
1996	23,104	15,393	7,711
1997	24,391	16,416	7,975
1998	32,863	23,013	9,850
1999	33,048	23,512	9,536
2000	31,957	22,727	9,230
2001	31,042	22,144	8,898
2002	32,143	23,080	9,063
2003	34,427	24,963	9,464
2004	32,325	23,272	9,053
2005	32,552	23,540	9,012
2006	32,155	22,813	9,342
2007	33,093	23,478	9,615
2008	32,249	22,831	9,418
2009	32,845	23,472	9,373
2010	31,690	22,283	9,407
2011	30,651	20,955	9,696
2012	27,858	19,273	8,585
2013	27,283	18,787	8,496

（出典：内閣府『平成 26 年版自殺対策白書』）

２．自殺に関する社会調査

表１－２は、web 検索によって自殺に関する社会調査を探し出した結果である。検索の実施は佐々木裕太が担当した。検索語としては「自殺　調査」「自殺　アンケート」のキーワードを投入した。

表１－２　web 検索による自殺に関する社会調査一覧

No.	調査名	調査主体	調査対象	調査方法	標本数	回収数	回収率	調査日
1	就職活動に関わる意識調査 http://www.lifelink.or.jp/hp/Library/201310shukatsu.pdf	NPO法人ライフリンク	大学生、学院生	対象者に調査の趣旨等を個別に説明、回答してもらった調査票を回収。	—	243票	—	平成25年3月、7月
2	自殺多発地域支援の在り方について http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/survey/report_h25/pdf/summary.pdf	内閣府（自殺対策推進室）	自殺多発地域として条件にあてはまる地域	ヒアリング調査 書面・電話等調査	—	—	—	平成25年
3	心の健康に関するアンケート調査 http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kenko/seishin/025755.html	相模原市	相模原市在住の20歳以上の男女個人	郵送調査法	3000人	1362人	45.4%	平成24年9月14日～10月5日
4	自殺未遂者調査研究事業 http://www.lifelink.or.jp/hp/Library/arakawa_report.pdf	荒川区	荒川区が把握した自殺未遂者＆区の生活福祉課やその他関係窓口で把握した自殺未遂者	区の保健師やライフリンクによる聞き取り調査	—	32人	—	平成24年3月
5	自殺対策に関する意識調査 http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/survey/report_h23/pdf/gaiyo.pdf	内閣府（自殺対策推進室）	全国20歳以上の者 層化2段無作為抽出法	調査員による留置法（封筒による密封回収）	3000人	2017票	67.2%	平成24年1月12日～29日
6	自殺に関する意識調査 http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/survey/report/1.html	内閣府（自殺対策推進室）	全国20歳以上の者 層化2段無作為抽出法	調査員による留置法（封筒による密封回収）	3000人	1808票	60.3%	平成20年2月21日～3月9日
7	自殺に関する意識調査 http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2012/01/60m1v100.htm	東京都福祉保健局	インターネット利用者	インターネット、アンケート専用サイト方の回答入力	290人	221人	76.2%	平成23年12月16日～12月28日
8	自殺実態白書2013 http://www.lifelink.or.jp/hp/whitepaper.html	NPO法人ライフリンク	遺族	面談形式	523人	—	—	平成19年7月～平成24年10月
9	自殺実態白書2008 http://www.lifelink.or.jp/hp/research.html	NPO法人ライフリンク	遺族	面談形式	305人	—	—	平成19年7月～平成20年6月
10	こころの健康(自殺対策)に関する世論調査 http://survey.gov-online.go.jp/h19/h19-jisatsu/1.html	内閣府（自殺対策推進室）	全国20歳以上の者 層化2段無作為抽出法	調査員による個別面接聴取	3000人	1728票	57.6%	平成19年5月17日～5月27日
11	広島市こころの健康に関するアンケート http://www.city.hiroshima.lg.jp/kenkoufukushi/utsu/findings/index.html	広島市	住民基本台帳及び外国人登録原票から20歳以上の男女を無作為に抽出	郵送法による調査票回収	3000人	1636票	54.5%	平成19年6月4日～6月15日
12	救急医療機関における自殺企図患者等に関する調査 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/tokyokaigi/insatu.files/60i7f201.pdf	東京都医師会	都内の救急告示医療機関	郵送配付、郵送回収	338箇所	206箇所	60.9%	平成19年12月1日～31日
13	平成21年度栃木県自殺未遂者実態調査 http://www.pref.tochigi.lg.jp/e05/welfare/hoken-eisei/jisatsutaisaku/documents/1269853905430.pdf	栃木県保健福祉部障害福祉課	栃木県内の救急告示医療機関	郵送配付、郵送回収	74箇所	74箇所	100.0%	平成21年9月1～30日
14	高度救命救急センターにおける自殺未遂者支援の状況 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/tokyokaigi/insatu.files/misuiya.pdf	東京都福祉保健局	日本医科大学付属病院高度救命救急センターに入院し、自殺企図と判断された者	カルテ記載内容から後方視的に精神医学的診断や心理社会背景に関する情報を収取。	392人	—	—	平成18年1月から平成21年12月までの入院患者のうち自殺企図と判断された患者
15	自殺に関する市民意識調査 http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/ikiyoko/4taisaku/chousa.html	横浜市健康福祉局	住民基本台帳を元に16歳以上の男女無作為抽出	郵送によるアンケート形式	6000人	2634人	43.9%	平成22年9月
16	自殺未遂者実態調査 http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/14052/00000000/hodo-10184_8.pdf	大阪府	大阪府内の救命救急センター	カルテからの情報による「基礎調査」、自殺未遂者からの聞き取りによる「面接調査」	—	1535人	—	平成23年1月～12月
17	自殺予防のためのアンケート調査 http://ikiru.ncnp.go.jp/pdf/110221-1.pdf	社団法人大阪府断酒会	大阪府内の地域断酒会60団体の会員、例会参加者を対象	調査票、回答用封筒を直接配付、各自封入された物を各回ごとに回収	845人	801人	77.3%	平成22年6月15日～8月23日
18	鉄道自殺防止のための調査 http://www.spc-osaka.org/2012stop/houkoku.pdf	関西学院大学総合政策学部 李政元・財団法人大阪府人権協会	関西鉄道6社	自殺および自殺未遂の事故に関する記録に統計解析を施す	511件	—	—	平成18年から平成22年の5年間に発生した鉄道人身事故記録

このリストは web 検索によって作成されたものであるので、すべての調査が網羅されていることが保障されてはいない。とりわけ、医学領域の調査が漏れ落ちている可能性が高い。しかし、web 上で一般市民に公開されている調査という理解を踏まえれば、一定程度有用なリストとなっ

ているものと思われる。

一見して、内閣府や自治体、そして NPO 法人ライフリンクといった公的な機関によって自殺に関する調査が行われていることがわかる。

とりわけ、内閣府（自殺対策推進室）による調査（No.５、６、10）は全国 20 歳以上の者を層化二段階無作為抽出して実施されており、適切な社会調査の手続きによって実施されている。また、広島市による調査（No.11）も同様の手続きによって実施されている。

自治体レベルでも自殺に関する複数の社会調査が実施されており、自殺者の増加という深刻な問題に対し、自殺対策に資するための社会調査の実施は珍しいものではないことも分かる。

本調査における自殺に対する許容度を測定する設問は、これら調査のうち内閣府による調査を参照した。調査テーマそれ自体が微細な配慮を必要とすることは言うまでもないが、時期を異にする別の調査との比較が可能になるという点もあり、いくつかの設問項目をあえて内閣府調査と同一の文言にしてある。

３．調査対象者

本調査は調査目的の性質上、通常のサンプリング調査ではなく、本学の社会調査実習としてははじめてネット調査を実施することとした。ネット調査という特性上、ネットに接続できる人しか対象になりえないため、対象年齢の上限を 59 歳までとし、20～59 歳男女を対象とすることとした。

2010 年国勢調査にもとづく総務省統計局による 2015 年４月１日付けの補間補正人口（推計値）をもとに、回収数 1000 サンプルを目標として、年齢層別・性別のサンプル割当数を決定した。表１－３にそれを示した。上段が補間補正人口であり、下段がサンプル割り付け数である。

表１－３　国勢調査補間補正人口にもとづくサンプル割り当て数

年　齢　階　級	男	女	計
2015年４月１日現在概算補間補正人口（単位：万人）			
20～29歳	658	623	1281
30～39歳	806	782	1588
40～49歳	931	914	1845
50～59歳	770	773	1544
サンプル割り付け数（単位：人）			
20～29歳	105	100	205
30～39歳	129	125	254
40～49歳	149	146	295
50～59歳	123	123	246
合計	506	494	1000

上記の割り当て数をもとに、株式会社マクロミルにネット調査を発注した。2015 年６月４日（木）21:42 に調査を開始し、６月５日（金）20:19 に調査を終了した。1033 票のサンプルが回収された（同社の設定で納品サンプル数は発注数の 103%であるため）。

回収されたサンプルについて社会調査実習メンバーで論理エラーチェックを行い、６票を無効票として 1027 票を有効サンプルとした。有効サンプルの年齢層別・性別の回収数は表１－４のとおりである。

表１－４　回収サンプル数

	男性	女性	計
20～29歳	109	103	212
30～39歳	132	128	260
40～49歳	153	151	304
50～59歳	125	126	251
合計	519	508	1027

４．調査項目の概要

調査項目の概要は、以下のとおりである。調査画面は、巻末資料として掲載してある。

・没頭できるものの有無に関する項目（４項目）
・将来展望に関する項目（４項目）
・時間的ゆとり、経済的ゆとり、精神的ゆとり（３項目）
・健康状態（１項目）
・他者への関心に関する項目（９項目）
・自尊感情（10 項目）
・一般的信頼（６項目）
・ソーシャル・サポート（７項目）
・地域団体への参加に関する項目（４項目）
・近隣人間関係に関する項目（５項目）
・人間関係満足度（５項目）
・自殺許容（５項目）
・いのちに対する倫理観（３項目）
・家族関係に関する項目（９項目）

なお、通常の調査であればフェイス項目としてたずねる以下の項目は、調査会社から提供された。性別、年齢、都道府県、未既婚の別、子供の有無、世帯年収、個人年収、職業、学生種別。

[i] 2016 年２月 18 日、参議院厚生労働委員会で自殺対策基本法の改正案が可決された。３月中に衆議院で審議され、可決される見通しとのことである（朝日新聞 2016 年２月 16 日、19 日、３月１日）。都道府県や市町村に対して、地域の実情を分析しそれにあわせた自殺対策計画の策定を義務づけるという内容である。

第２章　基礎的分析

佐々木裕太・山本 功・青柳涼子・渡辺由希

１．自殺許容度を測定する項目の単純集計

（１）単純集計結果

図２－１は、本調査における自殺許容度を測定する５項目の単純集計結果である。

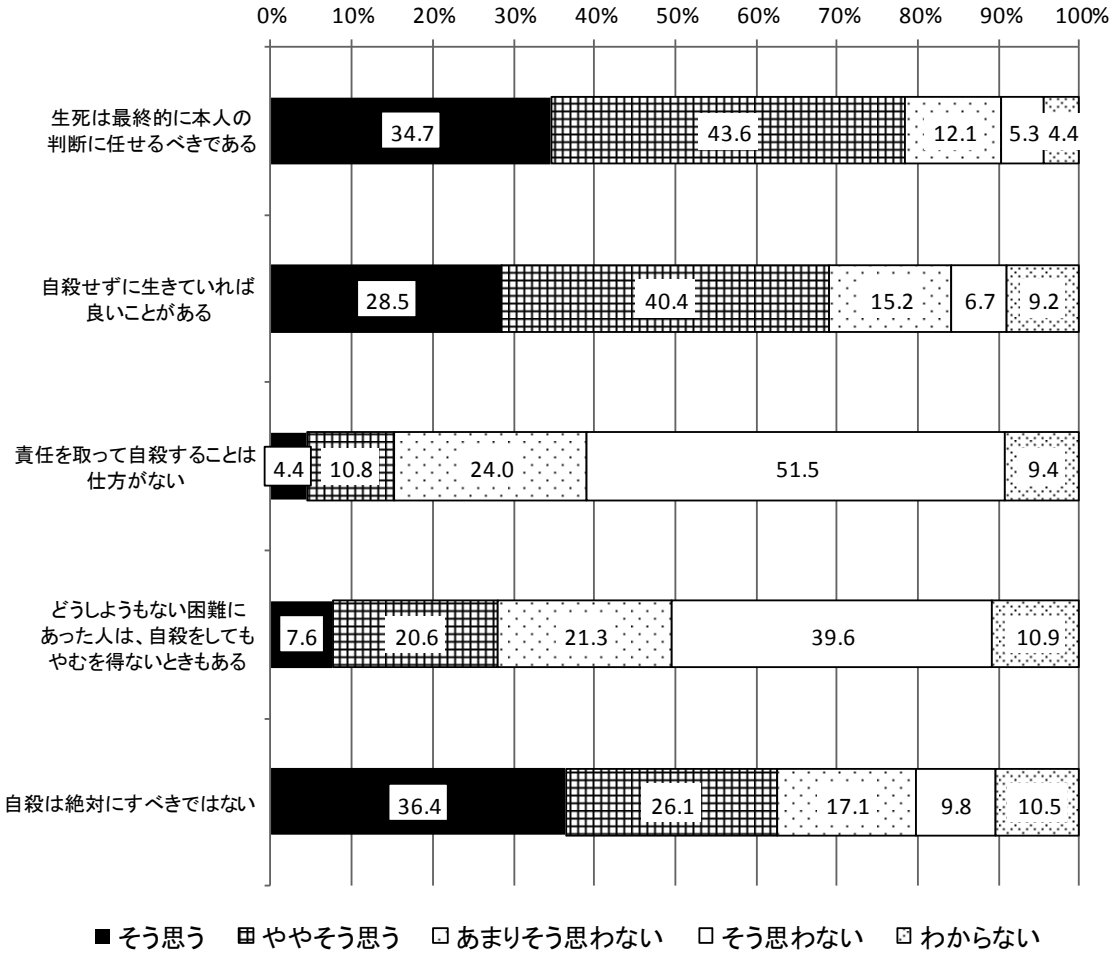


図２－１　自殺許容度の単純集計（N=1027）

「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」は、必ずしも自殺に特化した設問ではないが、生命の最終判断を本人の自己決定にゆだねられるかどうかを一般論として把握する設問である。これに対しては、強い肯定が 34.7%、弱い肯定が 43.6%となっており、計 78.3%と８割弱が肯定的な回答であった。

「自殺せずに生きていれば良いことがある」という設問は逆転項目であり、自殺許容を逆の方向からたずねた設問である。否定的な回答に注目すると、強い否定が 6.7%、弱い否定が 15.2%となっており、計 21.9%が否定的な回答であった。

「責任を取って自殺することは仕方がない」はある条件下で自殺を許容するかどうかを測定する設問である。強い肯定が 4.4%、弱い回答が 10.8%となっており、計 15.2%が許容的であった。

「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」も上の項目と同様に、ある条件下では自殺を許容するかどうかを測定する設問である。強い肯定が 7.6%、弱い肯定が 20.6%と、計 28.1%が許容的な回答であった。

「自殺は絶対にすべきではない」は、条件を付せずに直截に自殺に対する態度を測定する項目である。自殺許容を逆の方向から測定するものである。これに対しては強い否定が 9.8%、弱い否定が 17.1%となっており、計 27.0%と 3 割が自殺に許容的であった。

（２）内閣府調査（2011 年度）との比較

前章で触れたように、本調査における自殺許容度を測定する項目は、2008 年度、2011 年度に実施された内閣府による調査を参照し、５項目中３項目を意図的に同一の文言でたずねてある。

調査時期を異にするため、単純に比較することはできないが、それでも、本調査のようなネット調査と、住民基本台帳を利用した層化二段階無作為抽出法による調査とで、どのように結果が異なるのかを確認しておくことは、社会調査の方法論的検討の素材ともなるため、それなりに意味のあることだと思われる。そこで、ここでは、2011 年度の内閣府調査と本調査とで同一の設問について比較してみるものである。ここでいう内閣府調査とは、内閣府自殺対策推進室が実施した「平成 23 年度　自殺対策に関する意識調査」である。

比較対象とする内閣府調査は、全国の市区町村に居住する満 20 歳以上の者を母集団とした住民基本台帳を用いた層化二段階無作為抽出による調査であり、標本数は 3,000 人、地点数は 172 市町村、210 地点の調査である。調査時期は 2012 年 1 月 12 日～29 日、調査員による留置法（封筒による密封回収）で実施された。有効回収票は 2,017 票で有効回収率は 67.2%であった。なお、より詳細な情報は内閣府の web サイトで公開されている（http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/survey/report_h23/index.html）。

表２－１は、同一の設問である３項目につき、本調査と内閣府 2011 年度調査を比較したものである。表２－２は、「そう思う」と「ややそう思う」を、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を統合した表である。

なお、内閣府調査の調査結果は、無回答を含めて構成比を計算した結果が公表されているため、あらためて無回答を分母から除外した構成比を計算しなおして表に示してある。

一見して、内閣府による調査と本調査とで傾向を異にしていることが見て取れる。

両調査の差異をあげると、第一に、本調査は調査対象者の年齢を上限 59 歳までとした。これは、ネット調査の特性を考慮してのことである。高齢者層ではネット使用率が低くなり、若年層よりもいっそう代表性がなくなると考えてのことであった。それに対し、内閣府調査では上限が設定されておらず、60 歳代、70 歳以上の対象者が含まれている。

つぎに、内閣府調査は質問紙を用いての調査であるため、無回答がある。それに対し、本調査では web 画面の仕様上、無回答はありえない。そのため、意図的に「わからない」という選択肢を設けてある。「わからない」という選択肢があるのは内閣府調査でも同様であるが、それでも、１割程度が無回答となっていた。無回答率を示すと、「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」で 11.8%、「自殺せずに生きていれば良いことがある」9.1%、「責任を取って自殺することは仕方がない」12.0%となっている。

最後に、もっとも本質的な違いであるが、本調査はネット調査であるため、当然ながら、ネット環境を利用できる人のみが調査会社の登録モニタとなり、調査対象者となる。そうした特性が

回答傾向を部分的に規定することは十分に考えられる。

表２－１　本調査と内閣府調査の比較

		そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない	わからない
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである	淑徳調査（N=1027）	34.7	43.6	12.1	5.3	4.4
	内閣府調査（N=1779）	19.0	17.9	9.1	38.5	15.4
自殺せずに生きていれば良いことがある	淑徳調査（N=1027）	28.5	40.4	15.2	6.7	9.2
	内閣府調査（N=1833）	53.7	27.5	4.6	4.4	9.8
責任を取って自殺することは仕方がない	淑徳調査（N=1027）	4.4	10.8	24.0	51.5	9.4
	内閣府調査（N=1777）	4.3	4.5	6.7	74.8	9.6

注）内閣府調査は、「あまりそう思わない」ではなく、「ややそう思わない」という選択肢でたずねてある。

表２－２　本調査と内閣府調査の比較（回答統合）

		そう思う	そう思わない	わからない
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである	淑徳調査（N=1027）	78.3	17.3	4.4
	内閣府調査（N=1779）	37.0	47.6	15.4
自殺せずに生きていれば良いことがある	淑徳調査（N=1027）	68.9	21.9	9.2
	内閣府調査（N=1833）	81.2	9.0	9.8
責任を取って自殺することは仕方がない	淑徳調査（N=1027）	15.2	75.5	9.4
	内閣府調査（N=1777）	8.9	81.5	9.6

回答を統合した表２－２をみていく。

「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」という設問項目は、必ずしも自殺に特化したものではなく、回答者はたとえば安楽死や尊厳死を連想して答えた可能性もある。肯定的な回答が、内閣府調査では 37.0%と４割弱なのに対し、ネット調査である本調査では 78.3%と８割弱となっており、大きな違いが出た。また、内閣府調査では 15.4%の人が「わからない」とし、本調査の 4.4%より 10 ポイント以上多い。

「自殺せずに生きていいれば良いことがある」という設問では、内閣府調査では 81.2%と８割が肯定的な回答であったが、本調査では 68.9%と７割弱であった。「わからない」という回答は両調査とも１割弱であり、同水準であった。

「責任を取って自殺することは仕方がない」という項目は、内閣府調査では 8.9%と１割弱であったが、本調査では 15.2%と 6.3 ポイント多かった。「わからない」という回答は両調査とも１割弱であり、同水準であった。

２番目と３番目の項目はともに、自殺許容度を測定する項目であるが、両方とも内閣府調査よりも本調査の方が自殺許容度が高い方向であった。最初の設問は自殺に特化していない生命の自己決定に関する設問であったが、明確な違いがみられた。

以上を概観すると、ネット調査である本調査の方が自殺を許容し、生命の判断の自己決定を肯定する方向であった。

ついで、両調査における回答者の年齢構成のずれの影響を除去するために、年代を統制した比較を行う。表２－３にその結果を示した。

表２－３　年代別の本調査と内閣府調査の比較（回答統合）

			そう思う	そう思わない	わからない
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	20代	淑徳調査(n=212)	76.9	18.4	4.7
		内閣府調査(n=193)	52.8	35.3	11.9
	30代	淑徳調査(n=260)	71.5	21.9	6.5
		内閣府調査(n=279)	41.2	44.1	14.7
	40代	淑徳調査(n=304)	82.6	14.1	3.3
		内閣府調査(n=362)	34.0	51.4	14.6
	50代	淑徳調査(n=251)	81.3	15.5	3.2
		内閣府調査(n=340)	36.1	50.8	13.0
自殺せずに生きていれば良いことがある。	20代	淑徳調査(n=212)	62.3	29.3	8.5
		内閣府調査(n=193)	74.6	14.5	10.9
	30代	淑徳調査(n=260)	64.6	23.1	12.3
		内閣府調査(n=280)	77.9	10.3	11.8
	40代	淑徳調査(n=304)	71.4	22.0	6.6
		内閣府調査(n=381)	77.4	10.8	8.4
	50代	淑徳調査(n=251)	76.1	14.3	9.6
		内閣府調査(n=344)	85.2	7.0	7.9
責任を取って自殺することは仕方がない。	20代	淑徳調査(n=212)	19.3	67.9	12.7
		内閣府調査(n=192)	5.7	84.9	9.4
	30代	淑徳調査(n=260)	12.3	76.9	10.8
		内閣府調査(n=279)	6.5	84.9	8.6
	40代	淑徳調査(n=304)	15.1	77.3	7.6
		内閣府調査(n=364)	6.5	86.0	7.4
	50代	淑徳調査(n=251)	14.7	78.1	7.2
		内閣府調査(n=340)	7.9	82.6	9.4

年代を統制してもなお、表２－２と同様に、ネット調査である本調査の方が自殺に許容的であることが見て取れる。

特筆すべきは「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」という設問項目における回答傾向が、まったく異なることである。いずれの年代であっても本調査の方が肯定的な回答が多い。また、自殺許容度を測定する２番目、３番目の項目においても、本調査の方が自殺を許容する回答比率が高い傾向にあった。

２．性別にみた自殺許容

表２－４　性別にみた自殺許容

		そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	p 値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	男性(n=519)	36.8	42.6	11.2	4.8	4.6	0.579	
	女性(n=508)	32.5	44.7	13.0	5.7	4.1		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	男性(n=520)	26.8	38.3	15.6	7.7	11.6	0.033	*
	女性(n=509)	30.3	42.5	14.8	5.7	6.7		
責任を取って自殺することは仕方がない。	男性(n=521)	5.4	11.8	25.8	46.6	10.4	0.027	*
	女性(n=510)	3.4	9.8	22.1	56.5	8.3		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	男性(n=522)	9.6	19.3	22.9	34.9	13.3	0.000	***
	女性(n=511)	5.5	21.9	19.7	44.5	8.5		
自殺は絶対にすべきではない。	男性(n=523)	34.7	23.9	20.0	10.0	11.4	0.068	†
	女性(n=512)	38.2	28.4	14.2	9.7	9.7		

†: p<.1　*: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

表２－５　性別にみた自殺許容（二件法）

		そう思う	そう思わない	わからない	p値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	男性(n=519)	79.4	16.0	4.6	0.499	
	女性(n=508)	77.2	18.7	4.1		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	男性(n=519)	65.1	23.3	11.6	0.007	**
	女性(n=508)	72.8	20.5	6.7		
責任を取って自殺することは仕方がない。	男性(n=519)	17.1	72.4	10.4	0.075	†
	女性(n=508)	13.2	78.5	8.3		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	男性(n=519)	28.9	57.8	13.3	0.025	*
	女性(n=508)	27.4	64.2	8.5		
自殺は絶対にすべきではない。	男性(n=519)	58.6	30.1	11.4	0.030	*
	女性(n=508)	66.5	23.8	9.6		

†: p<.1　*: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

表２－４と表２－５は、性別に自殺許容の各項目を集計した結果である。これらの表から、男女によって、自殺許容度に違いがあることがわかる。表２－４は５件法のまま、表２－５は「そう思う」と「ややそう思う」を「そう思う」とし、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を「そう思わない」とカテゴリー統合して示したものである。以下、表２－５にもとづいて分析していく。

「生死は最終的に本人の判断に任せるべき」に対し、男性では、「そう思う」という肯定的な回答が 79.4%で、女性では 77.2%であり、同水準であった。有意な差は検出されなかった。

「自殺せずに生きていればよいことがある」に対し、男性では、「そう思う」という肯定的な回答が 65.1%で、女性では 72.8%であり、男性のほうが自殺に許容的であった。１%水準で有意な差が認められた。

「責任を取って自殺することは仕方がない」に対し、男性では、「そう思う」という肯定的な回答が 17.1%であり、女性では 13.2%であり、男性のほうが自殺に許容的であった。10%水準で傾向差があった。

「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」に対し、男性では、「そう思う」と答えた肯定的な回答が 28.9%で、女性では、27.4%であり、あまり違いがない。しかし、「そう思わない」という回答を見ると、男性 57.8%、女性 64.2%と女性の方が許容的ではない。「わからない」とする回答が男性 13.3%、女性 8.5%と、男性がわずかに多かった。５%水準で有意な差があった。

「自殺は絶対にすべきではない」に対し、男性では、「そう思う」と肯定的な回答が 58.6%であり、女性では 66.5%であり、男性のほうが自殺に対して許容的であった。５%水準で有意な差が見られた。

以上、５項目中の３項目において有意差が検出され、そのうち１項目に傾向差がみられた。いずれも、男性の方が自殺を許容する方向であった。

３．世代別にみた自殺許容

表２－６　世代別にみた自殺許容

		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	p値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	20代(n=212)	34.4	42.5	12.3	6.1	4.7	0.344	
	30代(n=260)	30.4	41.2	15.0	6.9	6.5		
	40代(n=304)	37.5	45.1	10.2	4.0	3.3		
	50代(n=251)	35.9	45.4	11.2	4.4	3.2		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	20代(n=213)	25.0	37.3	18.9	10.4	8.5	0.009	**
	30代(n=261)	30.0	34.6	15.8	7.3	12.3		
	40代(n=305)	29.6	41.8	15.1	6.9	6.6		
	50代(n=252)	28.7	47.4	11.6	2.8	9.6		
責任を取って自殺することは仕方がない。	20代(n=214)	7.1	12.3	20.3	47.6	12.7	0.236	
	30代(n=262)	3.9	8.5	26.5	50.4	10.8		
	40代(n=306)	4.0	11.2	24.3	53.0	7.6		
	50代(n=253)	3.2	11.6	23.9	54.2	7.2		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	20代(n=215)	11.8	16.5	22.2	36.8	12.7	0.153	
	30代(n=263)	6.9	23.9	20.0	36.5	12.7		
	40代(n=307)	6.9	22.4	19.7	42.1	8.9		
	50代(n=254)	5.6	18.3	23.9	42.2	10.0		
自殺は絶対にすべきではない。	20代(n=216)	35.4	23.6	17.5	13.2	10.4	0.099	†
	30代(n=264)	36.2	20.0	20.8	10.0	13.1		
	40代(n=308)	36.5	28.0	16.8	9.2	9.5		
	50代(n=255)	37.5	32.3	13.6	7.6	9.2		

†: p<.1 *: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

表２－７　世代別にみた自殺許容（二件法）

		そう思う	そう思わない	わからない	p値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	20代(n=212)	76.9	18.4	4.7	0.050	†
	30代(n=260)	71.5	21.9	6.5		
	40代(n=304)	82.6	14.1	3.3		
	50代(n=251)	81.3	15.5	3.2		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	20代(n=212)	62.3	29.2	8.5	0.002	**
	30代(n=260)	64.6	23.1	12.3		
	40代(n=304)	71.4	22.0	6.6		
	50代(n=251)	76.1	14.3	9.6		
責任を取って自殺することは仕方がない。	20代(n=212)	19.3	67.9	12.7	0.078	†
	30代(n=260)	12.3	76.9	10.8		
	40代(n=304)	15.1	77.3	7.6		
	50代(n=251)	14.7	78.1	7.2		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	20代(n=212)	28.3	59.0	12.7	0.298	
	30代(n=260)	30.8	56.5	12.7		
	40代(n=304)	29.3	61.8	8.9		
	50代(n=251)	23.9	66.1	10.0		
自殺は絶対にすべきではない。	20代(n=212)	59.0	30.7	10.4	0.052	†
	30代(n=260)	56.2	30.8	13.1		
	40代(n=304)	64.5	26.0	9.5		
	50代(n=251)	69.7	21.1	9.2		

†: p<.1 *: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

表２－６と表２－７は世代別に自殺許容の各項目を集計した結果である。これらの表から、世代によって、自殺許容度に違いがあることがわかる。表２－６は５件法のまま、表２－７は「そう思う」と「ややそう思う」を「そう思う」とし、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を「そう思わない」とカテゴリー統合して示したものである。

表２－７をもとに分析していく。「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」に対し、「そう思う」という肯定的な回答が 20 代 76.9%、30 代 71.5%、40 代 82.6%、50 代 81.3%となり、40 代、50 代がやや高くなっている。年齢とは直線的な関係になっていない。10%水準の傾向差が見られた。

「自殺せずに生きていればよいことがある」に対し、「そう思う」という肯定的な回答が 20 代では 62.3%、30 代では 64.6%、40 代では 71.4%、50 代では 76.1%であり、高年齢になるに従い、自殺許容度が低くなる。１%水準で有意な差があった。

「責任を取って自殺することは仕方がない」に対し、「そう思わない」という否定的な回答が 20 代 67.9%、30 代 76.9%、40 代 77.3%、50 代 78.1%であり、20 代の自殺許容度が高かった。10%水準の傾向差があった。

「どうしようもない困難にあった人は、自殺してもやむを得ないときもある」に対し、「そう思わない」という否定的な回答が 20 代 59.0%、30 代 56.5%、40 代 61.8%、50 代 66.1%であり、大きな違いはみられなかった。有意な差は検出されなかった。

「自殺は絶対すべきではない」に対し、「そう思う」という肯定的な回答が 20 代 59.0%、30 代 56.2%、40 代 64.5%、50 代 69.7%であり、40 代、50 代は、自殺に許容的ではなくなる方向であった。10%水準の傾向差があった。

以上、５項目中、４項目において有意差または傾向差が検出された。概して、20 代、30 代と比べ 40 代、50 代の方が自殺を許容しない傾向がみられた。

（１）世代別に層化した性別の分析

表２－８　世代別に層化した性別にみた自殺許容

			そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない	わからない	p 値
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	20代	男性(n=109)	45.9	36.7	9.2	2.8	5.5	0.002 *
		女性(n=103)	22.3	48.5	15.5	9.7	3.9	
	30代	男性(n=132)	34.9	40.2	13.6	4.6	6.8	0.357
		女性(n=128)	25.8	42.2	16.4	9.4	6.3	
	40代	男性(n=153)	34.6	46.4	10.5	5.9	2.6	0.384
		女性(n=151)	40.4	43.7	9.9	2.0	4.0	
	50代	男性(n=125)	33.6	45.6	11.2	5.6	4.0	0.788
		女性(n=126)	38.1	45.2	11.1	3.2	2.4	
自殺せずに生きていれば良いことがある。	20代	男性(n=109)	20.2	33.9	19.3	11.9	14.7	0.010 *
		女性(n=103)	30.1	40.8	18.5	8.7	1.9	
	30代	男性(n=132)	27.3	30.3	17.4	11.4	13.6	0.061 †
		女性(n=128)	32.8	39.1	14.1	3.1	10.9	
	40代	男性(n=153)	28.8	42.5	13.7	6.5	8.5	0.681
		女性(n=151)	30.5	41.1	16.6	7.3	4.6	
	50代	男性(n=125)	29.6	45.6	12.8	1.6	10.4	0.731
		女性(n=126)	27.8	49.2	10.3	4.0	8.7	
責任を取って自殺することは仕方がない。	20代	男性(n=109)	10.1	15.6	22.0	36.7	15.6	0.015 *
		女性(n=103)	3.9	8.7	18.5	59.2	9.7	
	30代	男性(n=132)	5.3	11.4	25.8	44.7	12.9	0.134
		女性(n=128)	2.3	5.5	27.3	56.3	8.6	
	40代	男性(n=153)	4.6	11.1	28.1	48.4	7.8	0.500
		女性(n=151)	3.3	11.3	20.5	57.6	7.3	
	50代	男性(n=125)	2.4	9.6	26.4	55.2	6.4	0.697
		女性(n=126)	4.0	13.5	21.4	53.2	7.9	
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	20代	男性(n=109)	16.5	17.4	24.8	21.1	20.2	<.0001 ***
		女性(n=103)	6.8	15.5	19.4	53.4	4.9	
	30代	男性(n=132)	10.6	23.5	20.5	29.6	15.9	0.026 *
		女性(n=128)	3.1	24.2	19.5	43.8	9.4	
	40代	男性(n=153)	8.5	19.6	21.6	42.5	7.8	0.544
		女性(n=151)	5.3	25.2	17.9	41.7	9.9	
	50代	男性(n=125)	4.0	16.0	25.6	43.2	11.2	0.629
		女性(n=126)	7.1	20.6	22.2	41.3	8.7	
自殺は絶対にすべきではない。	20代	男性(n=109)	29.4	19.3	22.9	12.8	15.6	0.008 *
		女性(n=103)	41.8	28.2	11.7	13.6	4.9	
	30代	男性(n=132)	36.4	15.9	20.5	11.4	15.9	0.354
		女性(n=128)	35.9	24.2	21.1	8.6	10.2	
	40代	男性(n=153)	35.3	28.1	19.6	10.5	6.5	0.284
		女性(n=151)	37.8	27.8	13.9	8.0	12.6	
	50代	男性(n=125)	36.8	31.2	17.6	5.6	8.8	0.349
		女性(n=126)	38.1	33.3	9.5	9.5	9.5	

†: p<.1　*: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

表２－９　世代別に層化した性別にみた自殺許容（二件法）

			そう思う	そう思わない	わからない	p値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	20代	男性(n=109)	82.6	11.9	5.5	0.042	*
		女性(n=103)	70.9	25.2	3.9		
	30代	男性(n=132)	75.0	18.2	6.8	0.334	
		女性(n=128)	68.0	25.8	6.3		
	40代	男性(n=153)	81.0	16.3	2.6	0.458	
		女性(n=151)	84.1	11.9	4.0		
	50代	男性(n=125)	79.2	16.8	4.0	0.637	
		女性(n=126)	83.3	14.3	2.4		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	20代	男性(n=109)	54.1	31.2	14.7	0.002	**
		女性(n=103)	70.9	27.2	1.9		
	30代	男性(n=132)	57.6	28.8	13.6	0.044	*
		女性(n=128)	71.9	17.2	10.9		
	40代	男性(n=153)	71.2	20.3	8.5	0.339	
		女性(n=151)	71.5	23.8	4.6		
	50代	男性(n=125)	75.2	14.4	10.4	0.900	
		女性(n=126)	77.0	14.3	8.7		
責任を取って自殺することは仕方がない。	20代	男性(n=109)	25.7	58.7	15.6	0.012	*
		女性(n=103)	12.6	77.7	9.7		
	30代	男性(n=132)	16.7	70.5	12.9	0.035	*
		女性(n=128)	7.8	83.6	8.6		
	40代	男性(n=153)	15.7	76.5	7.8	0.941	
		女性(n=151)	14.6	78.1	7.3		
	50代	男性(n=125)	12.0	81.6	6.4	0.393	
		女性(n=126)	17.5	74.6	7.9		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	20代	男性(n=109)	33.9	45.9	20.2	0.000	***
		女性(n=103)	22.3	72.8	4.9		
	30代	男性(n=132)	34.1	50.0	15.9	0.075	†
		女性(n=128)	27.3	63.3	9.4		
	40代	男性(n=153)	28.1	64.1	7.8	0.683	
		女性(n=151)	30.5	59.6	9.9		
	50代	男性(n=125)	20.0	68.8	11.2	0.326	
		女性(n=126)	27.8	63.5	8.7		
自殺は絶対にすべきではない。	20代	男性(n=109)	48.6	35.8	15.6	0.003	**
		女性(n=103)	69.9	25.2	4.9		
	30代	男性(n=132)	52.3	31.8	15.9	0.292	
		女性(n=128)	60.2	29.7	10.2		
	40代	男性(n=153)	63.4	30.1	6.5	0.085	†
		女性(n=151)	65.6	21.9	12.6		
	50代	男性(n=125)	68.0	23.2	8.8	0.721	
		女性(n=126)	71.4	19.0	9.5		

†: p<.1　*: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

表２－８と表２－９は、世代別に層化し、性別に自殺許容の各項目を集計した結果である。

表２－８は５件法のまま、表２－９は「そう思う」と「ややそう思う」を「そう思う」とし、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を「そう思わない」としてカテゴリー統合して示したものである。これらの表から世代を統制しても、性別によって、自殺許容度に違いがあることがわかる。

「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」に対し、20 代男性では、「そう思う」という肯定的な回答が 82.6%であり、女性では 70.9%であった。男性の方が自殺に許容的であった。５％水準で有意な差であった。30 代、40 代、50 代では、有意な差は見られなかった。

「自殺せず生きていれば良いことがある」に対し、20 代男性では、「そう思う」という肯定的な回答が 54.1%であり、20 代女性では、70.9%であった。男性の方が自殺に対して許容的であった。１％水準で有意な差がみられた。また 30 代では、男性が 57.6%、女性が 71.9%であった。５％水準の有意差が見られた。40 代、50 代の男女では、有意な差は見られなかった。

「責任を取って自殺することは仕方がない」に対し、「そう思わない」という否定的な回答が、20 代男性は 58.7%で、女性では、77.7%であった。男性の方が自殺に対して許容的であった。５％水準で有意な差が見られた。30 代でも、男性 70.5%、女性 83.6%と、男性の方が許容的であった。５％水準で有意な差が見られた。また、40 代、50 代の男女では、有意な差は見られなかった。

「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」に対し、「そう

思わない」という否定的な回答が、20 代男性は 45.9%で、女性では 72.8%であった。男性の方が自殺に許容的であった。ただし、20 代男性は「わからない」とする回答が 20.2%と多かった。0.1%水準で有意な差が見られた。また、30 代男性では 50.0%、女性では、63.3%であった。男性のほうが自殺に許容的であった。10%水準の傾向差がみられた。40 代、50 代の男女では、同水準で有意な差は見られなかった。

「自殺は絶対にすべきではない」に対し、20 代男性では、「そう思う」という肯定的な回答が 48.6%であり、20 代女性では 69.9%であった。男性の方が自殺に許容的であった。１%水準で有意な差が見られた。また、40 代でも「そう思わない」という回答に性差がみられ、男性 30.1%、女性 21.9%であった。10%水準の傾向差が見られた。30 代、50 代の男女では有意な差はみられなかった。

（２）性別にみた年齢層別の分析

表２－10　性別に層化した世代別の自殺許容

			そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない	わからない	p 値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	男性	20代 (n=109)	45.9	36.7	9.2	2.8	5.5	0.559	
		30代 (n=132)	34.9	40.2	13.6	4.6	6.8		
		40代 (n=153)	34.6	46.4	10.5	5.9	2.6		
		50代 (n=125)	33.6	45.6	11.2	5.6	4.0		
	女性	20代 (n=103)	22.3	48.5	15.5	9.7	3.9	0.010	*
		30代 (n=128)	25.8	42.2	16.4	9.4	6.3		
		40代 (n=151)	40.4	43.7	9.9	2.0	4.0		
		50代 (n=126)	38.1	45.2	11.1	3.2	2.4		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	男性	20代 (n=109)	20.2	33.9	19.3	11.9	14.7	0.023	*
		30代 (n=132)	27.3	30.3	17.4	11.4	13.6		
		40代 (n=153)	28.8	42.5	13.7	6.5	8.5		
		50代 (n=125)	29.6	45.6	12.8	1.6	10.4		
	女性	20代 (n=103)	30.1	40.8	18.5	8.7	1.9	0.101	
		30代 (n=128)	32.8	39.1	14.1	3.1	10.9		
		40代 (n=151)	30.5	41.1	16.6	7.3	4.6		
		50代 (n=126)	27.8	49.2	10.3	4.0	8.7		
責任を取って自殺することは仕方がない。	男性	20代 (n=109)	10.1	15.6	22.0	36.7	15.6	0.057	†
		30代 (n=132)	5.3	11.4	25.8	44.7	12.9		
		40代 (n=153)	4.6	11.1	28.1	48.4	7.8		
		50代 (n=125)	2.4	9.6	26.4	55.2	6.4		
	女性	20代 (n=103)	3.9	8.7	18.5	59.2	9.7	0.741	
		30代 (n=128)	2.3	5.5	27.3	56.3	8.6		
		40代 (n=151)	3.3	11.3	20.5	57.6	7.3		
		50代 (n=126)	4.0	13.5	21.4	53.2	7.9		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	男性	20代 (n=109)	16.5	17.4	24.8	21.1	20.2	0.001	**
		30代 (n=132)	10.6	23.5	20.5	29.6	15.9		
		40代 (n=153)	8.5	19.6	21.6	42.5	7.8		
		50代 (n=125)	4.0	16.0	25.6	43.2	11.2		
	女性	20代 (n=103)	6.8	15.5	19.4	53.4	4.9	0.573	
		30代 (n=128)	3.1	24.2	19.5	43.8	9.4		
		40代 (n=151)	5.3	25.2	17.9	41.7	9.9		
		50代 (n=126)	7.1	20.6	22.2	41.3	8.7		
自殺は絶対にすべきではない。	男性	20代 (n=109)	29.4	19.3	22.9	12.8	15.6	0.038	*
		30代 (n=132)	36.4	15.9	20.5	11.4	15.9		
		40代 (n=153)	35.3	28.1	19.6	10.5	6.5		
		50代 (n=125)	36.8	31.2	17.6	5.6	8.8		
	女性	20代 (n=103)	41.8	28.2	11.7	13.6	4.9	0.229	
		30代 (n=128)	35.9	24.2	21.1	8.6	10.2		
		40代 (n=151)	37.8	27.8	13.9	8.0	12.6		
		50代 (n=126)	38.1	33.3	9.5	9.5	9.5		

†: p<.1　*: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

表２－11　性別に層化した世代別の自殺許容（二件法）

			そう思う	そう思わない	わからない	p値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	男性	20代(n=109)	82.6	11.9	5.5	0.532	
		30代(n=132)	75.0	18.2	6.8		
		40代(n=153)	81.0	16.3	2.6		
		50代(n=125)	79.2	16.8	4.0		
	女性	20代(n=103)	70.9	25.2	3.9	0.011	*
		30代(n=128)	68.0	25.8	6.3		
		40代(n=151)	84.1	11.9	4.0		
		50代(n=126)	83.3	14.3	2.4		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	男性	20代(n=109)	54.1	31.2	14.7	0.006	**
		30代(n=132)	57.6	28.8	13.6		
		40代(n=153)	71.2	20.3	8.5		
		50代(n=125)	75.2	14.4	10.4		
	女性	20代(n=103)	70.9	27.2	1.9	0.019	*
		30代(n=128)	71.9	17.2	10.9		
		40代(n=151)	71.5	23.8	4.6		
		50代(n=126)	77.0	14.3	8.7		
責任を取って自殺することは仕方がない。	男性	20代(n=109)	25.7	58.7	15.6	0.006	**
		30代(n=132)	16.7	70.5	12.9		
		40代(n=153)	15.7	76.5	7.8		
		50代(n=125)	12.0	81.6	6.4		
	女性	20代(n=103)	12.6	77.7	9.7	0.430	
		30代(n=128)	7.8	83.6	8.6		
		40代(n=151)	14.6	78.1	7.3		
		50代(n=126)	17.5	74.6	7.9		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	男性	20代(n=109)	33.9	45.9	20.2	0.001	**
		30代(n=132)	34.1	50.0	15.9		
		40代(n=153)	28.1	64.1	7.8		
		50代(n=125)	20.0	68.8	11.2		
	女性	20代(n=103)	22.3	72.8	4.9	0.504	
		30代(n=128)	27.3	63.3	9.4		
		40代(n=151)	30.5	59.6	9.9		
		50代(n=126)	27.8	63.5	8.7		
自殺は絶対にすべきではない。	男性	20代(n=109)	48.6	35.8	15.6	0.011	*
		30代(n=132)	52.3	31.8	15.9		
		40代(n=153)	63.4	30.1	6.5		
		50代(n=125)	68.0	23.2	8.8		
	女性	20代(n=103)	69.9	25.2	4.9	0.194	
		30代(n=128)	60.2	29.7	10.2		
		40代(n=151)	65.6	21.9	12.6		
		50代(n=126)	71.4	19.0	9.5		

†: p<.1　*: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

表２－10 と表２－11 は、性別にみた世代別の自殺許容の各項目を集計した結果である。

これらの表から、男性と女性を分けて検討しても、世代によって違いがあることが分かる。表２－10 は５件法のまま、表２－11 は「そう思う」と「ややそう思う」を「そう思う」とし、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を「そう思わない」とカテゴリー統合して示したものである。

「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」に対し、「そう思う」という肯定的な回答が男性では、20 代 82.6%、30 代 75.0%、40 代 81.0%、50 代 79.2%であり、大きな違いは見られなかった。有意な差は検出されなかった。女性では、20 代 70.9%、30 代 68.0%、40 代 84.1%、50 代 83.3%であり、40 代と 50 代の自殺許容度が高かった。５%水準で有意な差があった。

「自殺せずに生きていればよいことがある」に対し、「そう思う」という肯定的な回答が男性では、20 代 54.1%、30 代 57.6%、40 代 71.2%、50 代 75.2%であり、20 代と 30 代の自殺許容度が高かった。１%水準で有意な差があった。女性では、20 代 70.9%、30 代 71.9%、40 代 71.5%、50 代 77.0%であり、50 代の自殺許容度が低かった。５%水準の有意差があった。男女共に高年齢になるに従い、自殺許容度が低くなった。

「責任を取って自殺することは仕方がない」に対し、「そう思わない」という否定的な回答が、男性では 20 代 58.7%、30 代 70.5%、40 代 76.5%、50 代 81.6%であり、20 代の自殺許容度が高

かった。１%水準の有意差があった。女性では、20 代 77.7%、30 代 83.6%、40 代 78.1%、50 代 74.6%であり、大きな違いは見られなかった。有意な差は検出されなかった。

「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。」に対し、「そう思わない」という否定的な回答が、男性では 20 代 45.9%、30 代 50.0%、40 代 64.1%、50 代 68.8%であり、20 代の自殺許容度が高かった。１%水準で有意な差があった。女性では、20 代 72.8%、30 代 63.3%、40 代 59.6%、50 代 63.5%であり、大きな違いは見られなかった。有意な差は検出されなかった。

「自殺は絶対すべきではない」に対し、「そう思う」という肯定的な回答が男性では、20 代 48.6%、30 代 52.3%、40 代 63.4%、50 代 68.0%であり、20 代の自殺許容度が高かった。５%水準の有意差であった。女性では、20 代 69.9%、30 代 60.2%、40 代 65.6%、50 代 71.4%であり、大きな違いは見られなかった。有意な差は検出されなかった。

以上、男性が５項目中４項目において有意な差が検出され、女性では、５項目中２項目において有意な差が検出された。男性うち４項目で高年齢になるに従い、自殺を許容しなくなる傾向にあった。女性では、生死の最終的な判断において高年齢になるに従い、生死の自己決定を許容し、「生きていれば、良いことがある」という項目において 50 代になると、自殺を許容しなくなることが明らかとなった。

４．未既婚別の自殺許容

次に、婚姻関係の有無によって自殺許容度に変化が見られるか否かを検討した（表２－12）。

表２－12　未既婚別の自殺許容

		そう思う	そう思わない	p値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	既婚（n=579）	81.4	18.7	0.608	
	未婚（n=403）	82.6	17.4		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	既婚（n=563）	81.9	18.1	0.000	***
	未婚（n=370）	66.8	33.2		
責任を取って自殺することは仕方がない。	既婚（n=564）	14.7	85.3	0.039	*
	未婚（n=367）	19.9	80.1		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	既婚（n=550）	27.3	72.7	0.001	**
	未婚（n=365）	38.1	61.9		
自殺は絶対にすべきではない。	既婚（n=556）	74.1	25.9	0.001	**
	未婚（n=363）	63.4	36.6		

*: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

その結果、「自殺せずに生きていれば良いことがある」、「責任を取って自殺することは仕方がない」、「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」、「自殺は絶対にすべきではない」の４項目について、有意差が見られた。「自殺せずに生きていれば良いことがある」では 0.1%水準、「責任を取って自殺することは仕方がない」では５%水準、「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」では１%水準、「自殺は絶対にすべきではない」では１%水準で有意であった。

有意差が見られたいずれの設問も、未婚者より既婚者の方が自殺を許容しない結果となった。特に「自殺せずに生きていれば良いことがある」の設問では、既婚者の「そう思う」が 81.9%、未婚者の「そう思う」が 66.8%となり、約 15 ポイントの差が見られた。このことは、当該設問

が「自殺は絶対にすべきではない」といった設問のように単純な自殺許容を測っているものではなく、回答者の将来（未来展望）を包含する項目であったためと考えられる。よって、未婚者よりも既婚者の方が、回答者自身の将来を肯定的なもの（いずれ良いことがある）として捉えていたと考えられる。

「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」と「自殺は絶対にすべきではない」の設問は、既婚者と未婚者に約 11 ポイントの差が見られた。「責任を取って自殺することは仕方がない」の設問は、既婚者と未婚者に約５ポイントの差が見られた。これらの設問のうち、「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」と、「責任を取って自殺することは仕方がない」は、自殺を許容する表現（やむを得ない・仕方がない）が含まれている点で共通しているが、その理由が異なっている。“どうしようもない困難”と“責任を取って”という理由の違いと、未既婚の違いに関連があると考えられる。

続いて、表２－12 を性別に分けて集計を行った（表２－13）。

表２－13　性別・未既婚別の自殺許容

			そう思う	そう思わない	p値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	男性	既婚（n=247）	82.6	17.4	0.703	
		未婚（n=248）	83.9	16.1		
	女性	既婚（n=332）	80.4	19.6	0.954	
		未婚（n=155）	80.7	19.4		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	男性	既婚（n=236）	80.9	19.1	0.000	***
		未婚（n=223）	65.9	34.1		
	女性	既婚（n=327）	82.6	17.4	0.000	***
		未婚（n=147）	68.0	32.0		
責任を取って自殺することは仕方がない。	男性	既婚（n=239）	15.5	84.5	0.039	*
		未婚（n=226）	23.0	77.0		
	女性	既婚（n=325）	14.2	85.9	0.834	
		未婚（n=141）	14.9	85.1		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	男性	既婚（n=231）	26.4	73.6	0.001	**
		未婚（n=219）	40.6	59.4		
	女性	既婚（n=319）	27.9	72.1	0.165	
		未婚（n=146）	34.3	65.8		
自殺は絶対にすべきではない。	男性	既婚（n=238）	69.8	30.3	0.086	†
		未婚（n=222）	62.2	37.8		
	女性	既婚（n=318）	77.4	22.6	0.007	**
		未婚（n=141）	65.3	34.8		

†: p<.1　*: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

その結果、「自殺せずに生きていれば良いことがある」の男性および女性、「責任を取って自殺することは仕方がない」の男性、「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」の男性、「自殺は絶対にすべきではない」の男性および女性に有意差が見られた。いずれも未婚より既婚の方が、自殺を許容しない結果となった。

女性の未既婚別で有意差が見られた設問は、「自殺せずに生きていれば良いことがある」、「自殺は絶対にすべきではない」の２つであったのに対し、男性で有意差が見られた設問は「自殺せずに生きていれば良いことがある」、「責任を取って自殺することは仕方がない」、「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」、「自殺は絶対にすべきではない」の４つであった。このことから、女性よりも男性の方が、未既婚別の自殺許容度に違いがあることが分かった。

また、男性のみに有意差が見られた設問は２つあった。１つ目の「責任を取って自殺することは仕方がない」という設問では、既婚者の「そう思う」が 15.5%、未婚者の「そう思う」が 23.0%であり、約８ポイントの差で未婚者の割合が高かった。

「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」という設問では、既婚者の「そう思う」が 26.4%であったのに対し、未婚者の「そう思う」が 40.6%と、約 14 ポイントの差で未婚者の割合が高かった。

続いて、表２－12 を年代別に分けて集計を行った（表２－14）。

表２－14　年代別・未既婚別の自殺許容

				そう思う	そう思わない	p値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	既婚	20代	(n=55)	76.4	23.6	0.12	
		30代	(n=160)	76.3	23.8		
		40代	(n=193)	83.9	16.1		
		50代	(n=171)	84.8	15.2		
	未婚	20代	(n=147)	82.3	17.7	0.271	
		30代	(n=83)	77.1	22.9		
		40代	(n=101)	88.1	11.9		
		50代	(n=72)	81.9	18.1		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	既婚	20代	(n=57)	80.7	19.3	0.894	
		30代	(n=157)	80.9	19.1		
		40代	(n=188)	81.4	18.6		
		50代	(n=161)	83.9	16.2		
	未婚	20代	(n=137)	62.8	37.2	0.004	**
		30代	(n=71)	57.8	42.3		
		40代	(n=96)	66.7	33.3		
		50代	(n=66)	84.9	15.2		
責任を取って自殺することは仕方がない。	既婚	20代	(n=55)	16.4	83.6	0.427	
		30代	(n=153)	11.1	88.9		
		40代	(n=191)	14.7	85.3		
		50代	(n=165)	17.6	82.4		
	未婚	20代	(n=130)	24.6	75.4	0.197	
		30代	(n=79)	19.0	81.0		
		40代	(n=90)	20.0	80.0		
		50代	(n=68)	11.8	88.2		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	既婚	20代	(n=54)	18.5	81.5	0.442	
		30代	(n=149)	29.5	70.5		
		40代	(n=185)	28.7	71.4		
		50代	(n=162)	26.5	73.5		
	未婚	20代	(n=131)	38.2	61.8	0.122	
		30代	(n=78)	46.2	53.9		
		40代	(n=92)	39.1	60.9		
		50代	(n=64)	26.6	73.4		
自殺は絶対にすべきではない。	既婚	20代	(n=54)	81.5	18.5	0.184	
		30代	(n=154)	70.1	29.9		
		40代	(n=183)	71.6	28.4		
		50代	(n=165)	78.2	21.8		
	未婚	20代	(n=136)	59.6	40.4	0.030	*
		30代	(n=72)	52.8	47.2		
		40代	(n=92)	70.7	29.4		
		50代	(n=63)	73.0	27.0		

*: p<.05　**: p<.01

その結果、「自殺せずに生きていれば良いことがある」の未婚者で１%水準の有意差が見られ、「自殺は絶対にすべきではない」の未婚者で５%水準の有意差が見られた。

「自殺せずに生きていれば良いことがある」という設問は、「そう思う」と回答すると自殺を許容しないことを意味し、「そう思わない」と回答すると自殺を許容することを意味する。この設問に対し、未婚者の「そう思う」の割合は 20 代で 62.8%、30 代で 57.8%、40 代で 66.7%、50 代で 84.9%であった。30 代の割合が最も低く、50 代の割合が最も高かった。

同様に考えてみると、「自殺は絶対にすべきではない」という設問は、「そう思う」と回答すると自殺を許容しないことを意味し、「そう思わない」と回答すると自殺を許容することを意味する。この設問に対し、未婚者の「そう思う」の割合は 20 代で 59.6%、30 代で 52.8%、40 代で 70.7%、50 代で 73.0%であった。やはりこちらも 30 代の割合が最も低く、50 代の割合が最も高かった。

以上の結果から、未婚者の場合は 30 代が自殺を許容する割合が高く、50 代が自殺を許容しない割合が高いことが分かった。いずれの設問にも既婚者には有意差が見られなかったことを考慮すると、次のようにあらわすこともできる。すなわち、既婚者と未婚者における自殺許容傾向の違いは、30 代で最も差が大きく（未婚者の方が自殺を許容する）、50 代で最も差が少なかった。

５．子どもの有無別の自殺許容

表２－15　子どもの有無別の自殺許容

			そう思う	そう思わない	p 値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	子どもあり	(n=490)	81.0	19.0	0.507	
	子どもなし	(n=486)	82.7	17.3		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	子どもあり	(n=477)	80.1	18.9	0.000	***
	子どもなし	(n=451)	70.7	29.3		
責任を取って自殺することは仕方がない。	子どもあり	(n=479)	14.2	85.8	0.035	*
	子どもなし	(n=448)	19.4	80.6		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	子どもあり	(n=466)	26.4	73.6	0.000	***
	子どもなし	(n=445)	37.3	62.7		
自殺は絶対にすべきではない。	子どもあり	(n=476)	74.4	25.6	0.002	**
	子どもなし	(n=439)	65.1	34.9		

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1（Fisherの直接確率検定）

子どもの有無と自殺許容意識との関連についてクロス集計を行った結果、表２－15 に示されるように、「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」という項目を除く４項目について、子どもの有無との関連がみられた。なお、p 値はフィッシャーの直接確率検定の結果である。表中の項目順にみてみよう。

「自殺せずに生きていれば良いことがある」という考えに対して「そう思う」（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と回答した人の割合は、子どもがいる人では 80.1%だが、子どもがいない人では 70.7%にとどまり、およそ 10 ポイントの差がみられた。子どもがいる人のほうが、将来に対して楽観的であり、自殺に対しては否定的な態度を有している（0.1%水準で有意）。

「責任を取って自殺することは仕方がない」という考えに対して「そう思う」と回答した人の割合は、子どもがいる人では 14.2%、子どもがいない人では 19.4%であった。何らかの理由をともなう場合でも、子どもがいる人のほうが、自殺に対して否定的であることがわかる（５%水準で有意）。

「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」という考えに

対して「そう思う」と回答した人の割合は、子どもがいる人では26.4%だが、子どもがいない人では 37.3%にのぼり、約 10 ポイントの差がある。前の項目と同様に、困難状況という理由がある場合においても、子どもがいる人は、子どもがいない人よりも自殺を許容しない傾向にあることがわかる（0.1%水準で有意)。

最後に、「自殺は絶対にすべきではない」という考えに対して「そう思う」と回答した人の割合は、子どもがいる人では 74.4%だが、子どもがいない人では 65.1%で、10 ポイントほど低い。この項目が最も直截に自殺の是非を問う項目といえるが、やはりこの回答結果からも、子どものいる人は、子どものいない人よりも自殺に対して否定的な態度を有していることが明らかになった（１%水準で有意)。

では、次に、性別と子どもの有無と自殺許容意識をクロス集計した結果をみてみよう（表２－16)。

表２－16　性別にみた子どもの有無と自殺許容

			そう思う	そう思わない	p 値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	男性	子どもあり　(n=201)	83.1	16.9	1.000	
		子どもなし　(n=290)	83.4	16.6		
	女性	子どもあり　(n=289)	79.6	20.4	0.641	
		子どもなし　(n=196)	81.6	18.4		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	男性	子どもあり　(n=193)	79.8	20.2	0.013	*
		子どもなし　(n=263)	69.2	30.8		
	女性	子どもあり　(n=284)	82.0	18.0	0.022	*
		子どもなし　(n=188)	72.9	27.1		
責任を取って自殺することは仕方がない。	男性	子どもあり　(n=198)	14.6	85.4	0.042	*
		子どもなし　(n=264)	22.3	77.7		
	女性	子どもあり　(n=281)	13.9	86.1	0.688	
		子どもなし　(n=184)	15.2	84.8		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	男性	子どもあり　(n=191)	26.2	73.8	0.005	**
		子どもなし　(n=256)	39.1	60.9		
	女性	子どもあり　(n=275)	26.5	73.5	0.063	†
		子どもなし　(n=189)	34.9	65.1		
自殺は絶対にすべきではない。	男性	子どもあり　(n=196)	68.9	31.1	0.320	
		子どもなし　(n=261)	64.4	35.6		
	女性	子どもあり　(n=280)	78.2	21.8	0.006	**
		子どもなし　(n=178)	66.3	33.7		

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1 (Fisherの直接確率検定)

「自殺をせずに生きていれば良いことがある」という項目については、男女ともに、子どもがいる人のほうが、子どもがいない人よりも「そう思う」と回答する傾向がある（ともに、５%水準で有意)。

「責任を取って自殺することは仕方がない」という項目については、男性についてのみ、子どもの有無と自殺許容意識のあいだに関連がみられた。子どものいる男性は、子どものいない男性よりも「責任を取って自殺することは仕方がない」という考えに否定的である（５%水準で有意)。女性の場合には、子どもの有無と自殺許容態度に関連がない。

同様に、「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」という項目についても、男性についてのみ、有意差が確認された。女性は傾向差がみられるのみである。子どものいる男性は、子どものいない男性よりも「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ない」という考えに否定的である（１%水準で有意)。

「自殺は絶対にすべきではない」という項目については、女性についてのみ有意差がみられた（１%水準)。「そう思う」と回答した割合は、子どものいる女性のほうが、子どものいない女性

よりも 12 ポイント高い。男性の場合には、子どもの有無と自殺許容意識のあいだに関連性が認められなかった。

表２－17 は、子どもの年齢を加味した子どもの有無と自殺許容意識の関連を示している。調査対象者を「子どもがいない人」「未成年子がいる人」「（子どもはいるけれども）未成年子がいない人」の３グループに分けて自殺許容意識との関係をみてみよう。

表２－17　子どもの有無および年齢と自殺許容

				そう思う	そう思わない	p 値	
生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。	子どもなし		(n=486)	82.7	17.3		
	子どもあり	未成年子あり	(n=371)	80.1	19.9	0.488	
		未成年子なし	(n=119)	84.0	16.0		
自殺せずに生きていれば良いことがある。	子どもなし		(n=451)	70.7	29.3		
	子どもあり	未成年子あり	(n=367)	79.3	20.7	0.000	***
		未成年子なし	(n=110)	87.3	12.7		
責任を取って自殺することは仕方がない。	子どもなし		(n=448)	19.4	80.6		
	子どもあり	未成年子あり	(n=365)	13.2	86.8	0.057	†
		未成年子なし	(n=114)	17.5	82.5		
どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。	子どもなし		(n=445)	37.3	62.7		
	子どもあり	未成年子あり	(n=356)	27.2	72.8	0.001	**
		未成年子なし	(n=110)	23.6	76.4		
自殺は絶対にすべきではない。	子どもなし		(n=439)	65.1	34.9		
	子どもあり	未成年子あり	(n=362)	71.5	28.5	0.001	**
		未成年子なし	(n=114)	83.3	16.7		

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

「自殺せずに生きていれば良いことがある」と「自殺は絶対にすべきではない」という２項目は、どちらも「そう思う」と回答するほうが自殺に対して否定的な態度といえる。分析の結果、この２項目について「そう思う」と回答した者の割合が最も高かったのは、「未成年子がいない人」であり、「未成年子がいる人」「子どもなし」の順に多い（0.1%水準で有意）。

一方、「責任をとって自殺することは仕方がない」と「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」という２項目は、どちらも「そう思う」と回答するほうが自殺に対して許容的な態度といえる。この２項目について「そう思う」と回答する者の割合は、どちらも「子どもがいない人」において最も高かった。しかし、「責任を取って自殺することは仕方がない」という項目では、次に「未成年子なし」が多いが、「どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」という項目では、次に「未成年子あり」が多いという結果になっている。

これまでの基礎的な分析から、総じていえば、子どもがいる者は子どもがいない者より自殺を否定的に捉えている傾向がある。しかしながら、子どもが未成年であるか否かでカテゴリー化した分析では、質問項目によっては未成年子がいる者のほうが、未成年子のいない者よりも自殺に許容的だという結果が得られている。子どもの存在が個人の自殺に対する意識といかなる関係にあるのか、実態に迫るためのさらなる分析が求められるところである。

６．自殺許容尺度の作成

本調査では、以下の５項目で自殺許容度を測定してきた。選択肢は、そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない、わからない、の５件法である。

１．生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。
２．自殺せずに生きていれば良いことがある。
３．責任を取って自殺することは仕方がない。
４．どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。
５．自殺は絶対にすべきではない。

しかしながら、「１．生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。」という項目に関しては、他の４項目に比べやや異質であることがここまでの分析で明らかになった。おそらく、この項目は回答者に「自殺」というよりは尊厳死や安楽死などを想起させ、自殺とは異なる価値判断を引き出しているように思える。そこで、この項目を除去し、残り４項目で自殺許容度を作成することとした。

「わからない」という回答は欠損値とし、ひとつでも「わからない」という回答があった場合は集計対象から除外した。「３．責任を取って自殺することは仕方がない」と「４．どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある」は得点を逆転させた。「そう思う」に１点、「ややそう思う」に２点、「あまりそう思わない」に３点、「そう思わない」に４点を与え、総和を算出した。得点が高いほど自殺を許容する方向である。

以上の４項目の信頼性係数はα=0.738 となった。尺度化が許容されるものとなった。また、いずれの項目を削除しても、これ以上αが上昇することはないことを確認した。

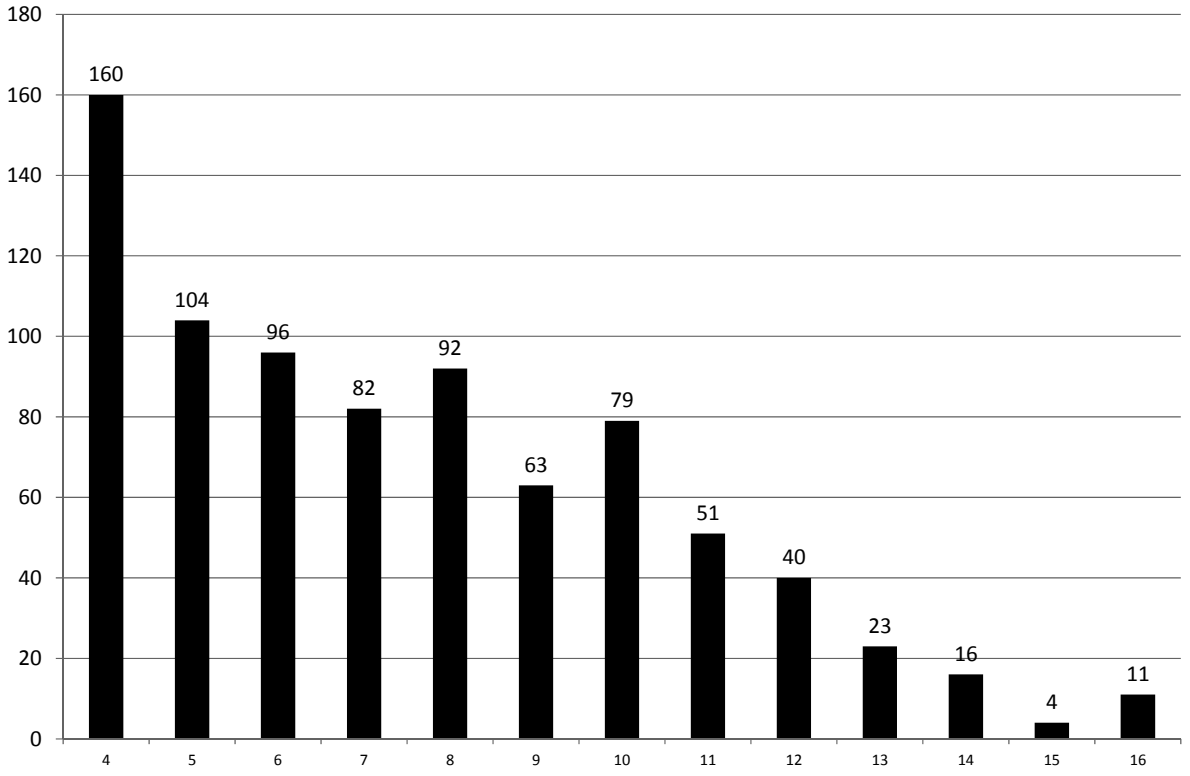
４項目に対して因子分析（最尤法、バリマックス回転）を行ったところ、１因子構造で安定することを確認した。その結果を表２－18 に示した。

総和を算出して自殺許容尺度を作成した結果、以下のとおりとなった。N=821、平均値 7.56、中央値 7.0、SD=2.99、歪度 0.64、尖度-0.36、最小値４、最大値 16。得点分布を図２－２に示した。図から読みとれるように、右肩下がりの分布となった。自殺をまったく許容しない人が最も多く、おおむね得点が高くなるにつれて減少していくという分布である。

表２－18　自殺許容度を測定する項目の因子分析結果

	因子負荷量
【逆転】困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ない	0.866
自殺は絶対にすべきではない	0.733
【逆転】責任を取って自殺することは仕方がない	0.714
自殺せずに生きていれば良いことがある	0.556
固有値	2.107

注）最尤法



注）図注の数値は度数

図２－２　自殺許容尺度の得点分布（N=821）

第３章　没頭しているものがあることと自殺許容の関連の分析

佐々木裕太

この章では、何か没頭しているものがあることが、自殺許容に関係するかを分析していく。仮説としては、なにかに没頭している人は自殺を許容しないというものである。

社会学の古典的な自殺研究としてはデュルケムの『自殺論』（1897）が知られている。

有名な『自殺論』においては、４つの自殺類型があげられた。自己本位的自殺、集団本位的自殺、アノミー的自殺、宿命的自殺の４つである。デュルケムが真っ先に論じているのは、自己本位的自殺である。19 世紀末のフランスにあっては、カトリックよりもプロテスタントの方が自殺率は高く、既婚者より未婚者の方が自殺率は高く、地方よりも都市部のほうが自殺率は高い。これらのデータから、一般的な命題として、社会的な統合が弱まれば自殺率が上昇するという命題が導き出された。このような自殺を自己本位的自殺と名づけたのである。

ところでなぜ、社会的統合が弱まると自殺率が高くなるのであろうか、デュルケムは「生きる意味」の喪失という説明を加えている。つまり、「生きる意味」は個人の中にあるのではなく、社会的なつながりによって与えられるものであるというわけだ。

もし、そうであるならば、デュルケムの言う自己本位的自殺を、より直接に具体的な水準で測定するアプローチとして、本章では没頭という観点を取り上げるわけである。

１．没頭尺度の構成

質問項目 Q1S1～Q1S4 を用いて、「没頭尺度」を構成した。項目は、以下の通りである。

S1）没頭できる物がある
S2）ずっと続けている趣味がある
S3）夢中になれるものがある
S4）時間を持て余すことが多い

以上の４項目の合計得点を算出して没頭尺度を算出した。回答は、「わからない」を欠損値とし、「あてはまらない」１点、「どちらかというとあてはまらない」２点、「どちらかというとあてはまる」３点、「あてはまる」４点の５件法である。また、S4 は逆転項目のため、逆転させた。点数が高いほど没頭するものがあり、点数が低いほど没頭するものがないことになる。

Q1S1-Q1S4　α=0.79　平均 11.25　SD=3.08　最大値 16、最小値 4、歪度-0.30、尖度-0.73

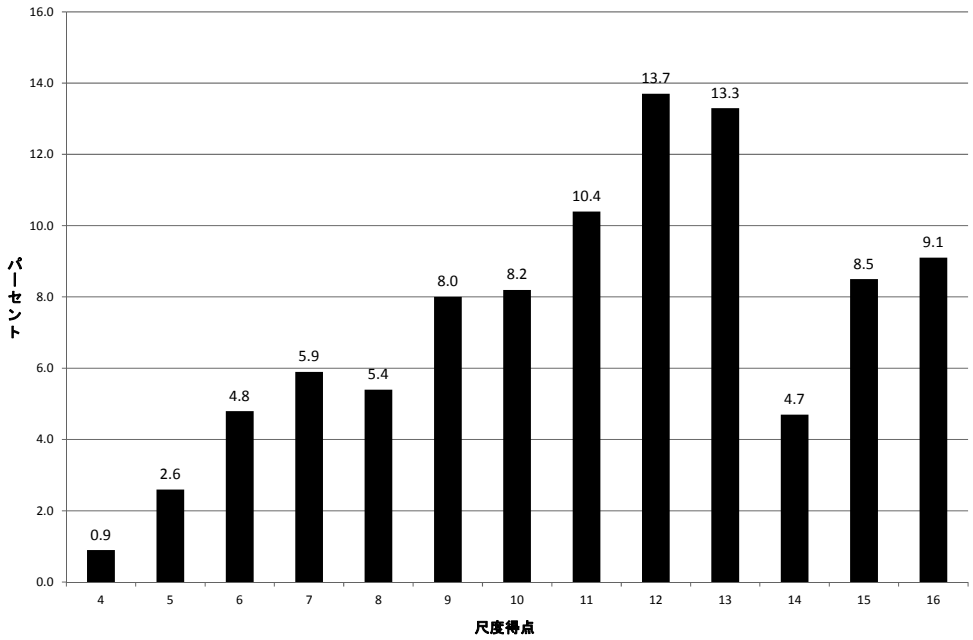


図３－１　没頭尺度の分布（N=980）

２．没頭尺度と自殺許容尺度の相関分析

ここでは、上記で作成した没頭尺度と自殺許容尺度の相関分析を行っていく。

表３－１　全体の相関係数

	相関係数	p値	
全体 (n=789)	-0.09	0.011	*

*p<0.05

表３－１より、全体の相関係数（n=789）をみると、－0.09 となり、５％水準で有意なごくわずかな負の相関がみられた（p<.05）。没頭の程度が高いほど、自殺を許容しないという関係である。

表３－２　性別にみた相関係数

	相関係数	p値	
男性 (n=392)	-0.17	0.000	***
女性 (n=397)	-0.03	0.530	

***p<0.001

男性（n=392）と女性（n=397）で別々に没頭尺度と自殺許容尺度の相関係数をみると、男性－0.17、女性－0.03 となった。男性で弱い負の相関がみられた（p<.001）。女性では相関関係はみられなかった。

表３−３　世代別の相関係数

	相関係数	p値	
20代 (n=151)	0.03	0.722	
30代 (n=187)	-0.17	0.016	*
40代 (n=247)	-0.18	0.005	**
50代 (n=204)	0.00	0.961	

**p<0.01　*p<0.05

20 代（n=151）、30 代（n=187）、40 代（n=247）、50 代（n=204）の没頭尺度と自殺許容尺度の相関係数をみると、20 代 0.03、30 代−0.17、40 代−0.18、50 代 0.00 となった。30 代と 40 代にごくわずかに弱い負の相関がみられた。

表３−４は世代別かつ性別に標本を分割し、それぞれに没頭尺度と自殺許容尺度の相関関係をあらわしたものである。

相関係数をみると、20 代男性の相関係数が−0.06、女性が 0.04 で相関関係はない。50 代男性−0.01、女性 0.01 と、相関関係はない。30 代女性−0.10 と相関はみられない。40 代女性 0.07 と相関はみられない。

30 代男性において、−0.27 と弱い負の相関がみられた。40 代男性においても、−0.28 と弱い負の相関がみられた。

したがって、30 代男性と 40 代男性に限っていえば、何かに没頭している人は、自殺を許容しない傾向にあるといえる。

表３−４　世代別に層化した性別の相関係数

		相関係数	p値	
20代	男性 (n=70)	-0.06	0.595	
	女性 (n=81)	0.04	0.693	
30代	男性 (n=96)	-0.27	0.007	**
	女性 (n=91)	-0.10	0.326	
40代	男性 (n=124)	-0.28	0.001	**
	女性 (n=123)	0.07	0.446	
50代	男性 (n=102)	-0.01	0.944	
	女性 (n=102)	0.01	0.916	

**p<0.01

３．没頭尺度を独立変数とした回帰分析

ここでは、自殺許容度を従属変数とし、没頭尺度を独立変数とした回帰分析を行っていく。

表３−５　自殺許容に対する重回帰分析

	モデル１		モデル2		モデル3		モデル4		モデル5	
	β	p 値	β	p 値	β	p 値	β	p 値	β	p 値
没頭	−0.09	0.011	−0.10	0.005	−0.11	0.003	−0.12	0.001	−0.12	0.001
性別（男=1 女=0）			0.11	0.003	0.11	0.002	0.08	0.019	0.08	0.022
年齢					−0.10	0.002	−0.07	0.068	−0.06	0.085
結婚（既婚=1 未婚=0）							−0.14	0.000	−0.13	0.009
子ども（いる=1　いない=0）									−0.02	0.614
	n=788		n=788		n=788		n=788		n=788	
	p=0.0114		p=0.0004		p<.0001		p<.0001		p<.0001	
調整済Ｒ²	0.007		0.017		0.027		0.044		0.043	

没頭の度合いが自殺許容度をどの程度低めるかを明らかにするために、自殺許容度を従属変数とした回帰分析を行った。その結果を、表３－５に示した。

まず、モデル１において単回帰分析を行った。その結果、β＝−0.09、５%水準で没頭は有意な効果を持っていた。すなわち、何かに没頭しているほど、自殺を許容しないということである。ただし、調整済み決定係数は 0.007 と、モデルの説明力は低い。

ついで、モデル２では没頭尺度に加え、性別を独立変数として投入した。なお、性別の効果は、没頭の程度をコントロールしても、男性の方が自殺を許容することがわかった。性別はβ＝0.11 で、没頭尺度とほぼ同程の効果であった。

モデル３では、さらに年齢を独立変数として、投入した。年齢は、自殺許容度を下げる方向で、１%水準で有意な効果を持っていた。

モデル４では、婚姻状況を独立変数として投入した。既婚=１、未婚=０とした。β＝−0.14、0.1%水準で有意な効果が見られた。全てのモデルの中でもっとも調整済み決定係数の値が高く、当てはまりがよい。ただし、調整済み決定係数は 0.044 であり、説明力の高いモデルとは言えない。このモデルを見ると結婚の効果がもっとも大きく、年齢の効果は有意ではなくなる。ということは、自殺許容に対する年齢の効果は結婚の有無による擬似相関であった可能性が示唆される。

最後にモデル５で、子どもの有無を独立変数として投入したが、有意な効果は見られなかった。また、モデル４に比べ調整済み決定係数がわずかに低下した。

以上、５つのモデルを検討してきたが、没頭は全てのモデルにおいて、有意な効果を持っていた。したがって、本章の仮説である「何かに没頭している人は自殺を許容しない」は立証されたと評価してよい。

なお、没頭に加え、結婚も有意な効果を持っていることが明らかになり、こうした結果はデュルケムの『自殺論』と符合するものと言えよう。

第４章　死刑意識と自殺許容との関連

渡辺由希

１．死に対する意識－死刑と自殺（自死）の違い

人々の死に対する意識は、裁判員裁判が重大事件を対象とする現在において重要な問題である。裁判員裁判において死刑判決が下された事件は、平成 27 年度内で２件存在し、いずれも殺人事件であった。山崎・石崎・サトウ(2014)は、大学生に対して死刑の賛否を問う調査を行ったところ、死刑賛成に影響する要因として厳罰主義因子が，死刑反対に影響する要因として死刑嫌悪因子が存在したと示している。

一方、社会問題となって久しいのが自殺（自死）[ii]である。平成 18 年に自殺対策基本法が施行され、国による自殺対策が行われてきつつある。内閣府の平成 26 年版自殺対策白書によれば、自殺者数は 1998（平成 10）年以降増加し３万人にのぼったが、ここ数年では減少傾向を見せてはいるものの、依然として２万人以上を推移している。

死刑と自殺は、いずれも人の死に対する意識である点で共通している。しかし、当然のことながらこの２つには明らかな違いがある。死刑とは、裁判員や裁判官によって下される刑罰である。死刑が下された者は、最早自身の死を選択することは不可能であり、国家（司法）に死を委ねた状態である。対して自殺とは、自分自身の行為である。両者の明らかな違いは、誰に（どこに）死を委ねているかという点であると考えられる。

２．調査の目的

これを踏まえ、本章の目的は、死刑意識と自殺許容との関連を検討する。いずれの項目も、「そう思う」から「そう思わない」に「分からない」を加えた５件法で尋ねた。

死刑意識については、以下の２項目を使用する。

(1) 死刑は刑罰として妥当だ。
(2) 社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。

自殺許容については、以下の５項目を使用する。

(1) 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。
(2) 自殺せずに生きていれば良いことがある。
(3) 責任を取って自殺することは仕方がない。
(4) どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。
(5) 自殺は絶対にすべきではない。

３．調査結果

（１）死刑意識の検討

分析を行う前に、死刑意識を「そう思う」と「そう思わない」の２群に分けた。「そう思う」から「分からない」までの選択肢のうち、「分からない」を欠損値とし「そう思う」「ややそう思う」を「そう思う」群、「あまりそう思わない」「そう思わない」を「そう思わない」群とした。

まず死刑に関する意識について、「そう思う」と「そう思わない」の割合を検討した（表４－１）。

表４－１　死刑意識

		そう思う	そう思わない	χ^2値	p値	
死刑は刑罰として妥当だ。	(n=919)	78.6%	21.4%	299.918	<.0001	***
社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。	(n=931)	79.9%	20.1%	333.243	<.0001	***

***p<0.001

表４－１より、「死刑は刑罰として妥当だ」に関して「そう思う」が 78.6%、「そう思わない」が 21.4%となり、これらの割合の差は 0.1%水準で有意であった(χ^2(919)=299.918, p<.001)。同様に、「社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない」に関して「そう思う」が 79.9%、「そう思わない」が 20.1%となり、割合の差は 0.1%水準で有意であった(χ^2(931)=333.243, p<.001)。死刑意識についてたずねるいずれの項目も、「そう思う」と回答した人の割合の方が有意に高かったことから、人々は基本的に死刑はやむを得ないと考えていることが分かった。

次に、男女別の死刑意識をクロス表にまとめた（表４－２）。

表４－２　男女別の死刑意識

		そう思う	そう思わない	χ^2値	p値	
死刑は刑罰として妥当だ。	男性　(n=443)	81.3%	18.7%	4.398	0.036	*
	女性　(n=476)	75.6%	24.4%			
社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。	男性　(n=482)	80.7%	19.3%	0.390	0.532	
	女性　(n=449)	79.1%	20.9%			

*p<0.05

表４－２より、「死刑は刑罰として妥当だ」に関して、男性は「そう思う」が 81.3%、「そう思わない」が 18.7%だったのに対し、女性は「そう思う」が 75.6%、「そう思わない」が 24.4%と、５%水準で有意な差が見られた(χ^2(919)=4.398, p<.05)。「社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない」に関しても、女性より男性の方が「そう思う」の割合が高かったが、有意な差ではなかった(χ^2(931)=0.390, *n.s.*)。

次に、年齢別の死刑意識をクロス表にまとめた（表４－３）。

表４－３　年齢別の死刑意識

		そう思う	そう思わない	χ^2値	p値	
死刑は刑罰として妥当だ。	20代　(n=181)	76.2%	23.8%	1.780	0.619	
	30代　(n=237)	77.2%	22.8%			
	40代　(n=273)	81.0%	19.1%			
	50代　(n=228)	79.0%	21.1%			
社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。	20代　(n=186)	74.7%	25.3%	8.297	0.040	*
	30代　(n=240)	77.1%	22.9%			
	40代　(n=277)	84.5%	15.5%			
	50代　(n=228)	81.6%	18.4%			

*p<0.05

表４－３より、「死刑は刑罰として妥当だ」に関して、「そう思う」と答えた人の割合が最も高かったのは 40 代の 81.0%であり、最も低かったのは 20 代の 76.2%であった。ただし有意差は見

られなかった(χ^2(917)=1.780, *n.s.*)。同様に、「社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない」に関して、「そう思う」と答えた人の割合が最も高かったのは 40 代の 84.5%であり、最も低かったのは 20 代の 74.7%であった。こちらは５%水準の有意差が見られた(χ^2(931)=8.297, p<.05)。

これらのことから、死刑が社会の秩序を守るために必要な刑罰だと考えているのは 40 代であることが分かった。

さらに、男女別・年齢別の死刑意識をクロス表にまとめた（表４－４）。

表４－４　男女別・年齢別の死刑意識

			そう思う	そう思わない	χ^2値	p値	
死刑は刑罰として妥当だ。	男性	20代 (n=97)	79.4%	20.6%	1.145	0.766	
		30代 (n=120)	79.2%	20.8%			
		40代 (n=143)	82.5%	17.5%			
		50代 (n=116)	83.6%	16.4%			
	女性	20代 (n=84)	72.6%	27.4%	1.479	0.687	
		30代 (n=117)	75.2%	24.8%			
		40代 (n=130)	79.2%	20.8%			
		50代 (n=112)	74.1%	25.9%			
社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。	男性	20代 (n=100)	73.0%	27.0%	6.694	0.082	†
		30代 (n=122)	78.7%	21.3%			
		40代 (n=145)	84.8%	15.2%			
		50代 (n=115)	84.4%	15.7%			
	女性	20代 (n=86)	76.7%	23.3%	3.246	0.355	
		30代 (n=118)	75.4%	24.6%			
		40代 (n=132)	84.1%	15.9%			
		50代 (n=113)	78.8%	21.2%			

† p<0.1

表４－４より、「死刑は刑罰として妥当だ」に関して、男性で「そう思う」と答えた人が最も高かった世代は 50 代の 83.6%であり、最も低かったのは 30 代の 79.2%であった。およそ４ポイントの開きがあったが、有意差は見られなかった(χ^2(476)=1.145, *n.s.*)。女性は「そう思う」と答えた人が最も高かった世代は 40 代の 79.2%であり、最も低かったのは 20 代の 72.6%であった。およそ７ポイントの開きがあったが、有意差は見られなかった(χ^2(443)=1.479, *n.s.*)。

「社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない」に関して、男性で「そう思う」と答えた人が最も高かった世代は 40 代の 84.8%であり、最も低かったのは 20 代の 73.0%であった。およそ 11 ポイントの開きがあり、10%水準の有意傾向が見られた(χ^2(482)=6.694, p<.1)。女性は「そう思う」と答えた人が最も高かった世代は 40 代の 84.1%であり、最も低かったのは 30 代の 75.4%であった。およそ９ポイントの開きがあったが、有意差は見られなかった(χ^2(449)=3.246, *n.s.*)

（２）死刑容認と自殺許容の関連

人々の死刑に関する意識には、男女差や世代差があることが明らかになった。次の分析では、死刑容認と自殺許容との関連を検討するため、自殺許容を独立変数、死刑容認を従属変数とする t 検定を行った。

分析の前に、死刑について尋ねる２項目を加算し、新たに「死刑容認度」（α=.93）を作成した。また、自殺について尋ねる５項目のうち「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」を除いた４項目を加算し（α=.81）、平均値 7.56 以上を自殺を許容する群、7.56 未満を自殺を許容しない群とした。なお、「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」の項目を除外した理由と

して、クロス表の検討などから他の４項目とは質の異なる項目であると考えたためである。結果を表４－５、４－６に示す。

表４－５　自殺許容度別の死刑容認度

	自殺を許容する		自殺を許容しない			
	M	SD	M	SD	t値	p値
死刑容認度	6.33	1.68	6.48	1.71	-1.32	0.188

表４－５より、自殺を許容する人の死刑容認度の平均値は 6.33、自殺を許容しない人の死刑容認度の平均は 6.48 となり、自殺を許容する人の方が自殺を許容しない人よりも死刑容認度の平均値は高かった。しかし有意差は認められなかった(t(911)=－1.32, *n.s.*)。

表４－６　自殺許容度別の死刑容認度（男女別）

		自殺を許容する		自殺を許容しない				
		M	SD	M	SD	t値	p値	
死刑容認度	男性	6.39	1.66	6.67	1.68	-1.80	0.073	†
	女性	6.25	1.70	6.30	1.73	-0.27	0.788	

† p<0.1

次に男女別に検討した結果、男性において自殺を許容する人の死刑容認度の平均が 6.39、自殺を許容しない人の死刑容認度の平均は 6.67 となり、10%水準の有意傾向であった(t(472)=－1.80, p<.1)。すなわち、自殺を許容しない人の方が自殺を許容する人に比べて、死刑を容認する傾向が見られた。女性は有意差が見られなかった(t(437)=－0.27, *n.s.*)。

死刑容認度を尺度化したところ、有意傾向が得られたのみであったため、死刑について尋ねる２項目を合成せず、項目別に検討を行った。結果を表４－７、４－８に示す。

表４－７　自殺許容度別の死刑容認度（項目別）

	自殺を許容する		自殺を許容しない				
	M	SD	M	SD	t値	p値	
死刑は刑罰として妥当だ。	3.14	0.90	3.24	0.88	-1.75	0.081	†
社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。	3.19	0.83	3.23	0.89	-0.76	0.446	

† p<0.1

表４－７より、「死刑は刑罰として妥当だ」について、自殺を許容する人の平均値が 3.14、自殺を許容しない人の平均値が 3.24 となり、10%水準の有意傾向であった(t (917)=－1.75, p<.1)。すなわち、自殺を許容する人の方が自殺を許容しない人に比べて、「死刑は刑罰として妥当だ」と考える傾向が見られた。「社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない」については、自殺を許容する人の平均値が 3.19、自殺を許容しない人の平均値が 3.23 となり、有意差は見られなかった(t(929)=－0.76, *n.s.*)。

表４－８　自殺許容度別の死刑容認度（男女別・項目別）

		自殺を許容する		自殺を許容しない				
		M	SD	M	SD	t値	p値	
死刑は刑罰として妥当だ。	男性	3.19	0.88	3.35	0.85	-2.04	0.042	*
	女性	3.07	0.93	3.14	0.90	-0.73	0.464	
社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。	男性	3.19	0.83	3.31	0.91	-1.39	0.165	
	女性	3.18	0.83	3.16	0.88	0.22	0.822	

*p<0.05

次に男女別に検討した（表４－８）。その結果、男性における「死刑は刑罰として妥当だ」について、自殺を許容する人の平均値が 3.19、自殺を許容しない人の平均値が 3.35 となり、５％水準の有意差が見られた(t(474)=－2.04, p<.05)。自殺を許容する人の方が、死刑はやむを得ない刑罰だと考える傾向があることが分かった。女性では有意差が見られなかった(t (441)=－0.73, *n.s.*)。「社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない」については、男性で自殺を許容する人の平均値が 3.19、自殺を許容しない人の平均値が 3.31 であったが、有意差は見られなかった(t(480)=－1.39, *n.s.*)。女性も同様に、3.18 と 3.16 の平均値が得られたが、有意差は見られなかった(t(447)=0.22, *n.s.*)。

以上から、死刑容認度、特に「死刑は刑罰として妥当だ」という項目について男女差が見られた。これに加え、(１)で世代差が見られたことから、男女別・世代別の死刑容認度を項目別に検討した。結果を表４－９に示す。

表４－９　自殺許容度別の死刑容認度（男女別・世代別・項目別）

			自殺を許容する		自殺を許容しない				
			M	SD	M	SD	t値	p値	
死刑は刑罰として妥当だ。	男性	20代	3.12	0.99	3.54	0.74	-2.36	0.021	*
		30代	3.17	0.87	3.27	0.98	-0.58	0.565	
		40代	3.25	0.89	3.41	0.74	-1.14	0.258	
		50代	3.21	0.75	3.26	0.88	-0.26	0.792	
	女性	20代	3.14	0.99	3.10	0.97	0.22	0.830	
		30代	2.95	0.97	3.24	0.84	-1.70	0.092	†
		40代	3.12	0.92	3.21	0.92	-0.56	0.579	
		50代	3.08	0.86	2.97	0.87	0.60	0.549	
社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。	男性	20代	3.06	0.97	3.35	0.93	-1.53	0.128	
		30代	3.15	0.82	3.29	1.02	-0.81	0.418	
		40代	3.30	0.81	3.36	0.80	-0.46	0.649	
		50代	3.24	0.70	3.23	0.91	0.09	0.932	
	女性	20代	3.24	0.89	3.10	0.93	0.69	0.493	
		30代	3.03	0.87	3.23	0.91	-1.15	0.251	
		40代	3.24	0.77	3.27	0.85	-0.19	0.848	
		50代	3.20	0.81	3.00	0.82	1.22	0.226	

*p<0.05　† p<0.1

表４－９から、「死刑は刑罰として妥当だ」について有意差が見られた世代があった。まず男性について、20 代に５％水準の有意差が見られた(t(95)=－2.36, p<.05)。自殺を許容する人の平均値が 3.12、自殺を許容しない人の平均値が 3.54 となり、自殺を許容しない人の方が自殺を許容する人よりも、「死刑は刑罰として妥当だ」と考えることが分かった。

また女性については、30 代に 10%水準の有意傾向が見られた($t(115)=-1.70$, $p<.1$)。自殺を許容する人の平均値が 2.95、自殺を許容しない人の平均値が 3.24 となり、自殺を許容しない人の方が自殺を許容する人よりも、「死刑は刑罰として妥当だ」と考える傾向があることが分かった。

（3）まとめ

以上の分析から、次のような死刑容認と自殺許容の関係が明らかとなった。すなわち、自殺を許容しない人の方が自殺を許容する人よりも、死刑を容認する傾向があった。特に 20 代という若い世代の男性に特徴的に見られた。自分自身で死を選ぶことを容認する考えが、同時に死を刑罰とすることを許容する考えに結びつく。性別や年齢といった属性以外に、どのような要因が死刑容認意識に影響を与えているかについて、さらなる検討が必要である。

引用文献

内閣府, 2014, 「基本的法制度に関する世論調査」http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-houseido/index.html（最終閲覧日：2016/02/28）

山崎優子・石崎千景・サトウタツヤ, 2014, 死刑賛否に影響する要因と死刑判断に影響する要因　立命館人間科学研究, **29**, 81-94.

[ii] なお、本報告書では法律上の表記にならい、「自殺」という表現を用いるが、近年では遺族への配慮から「自死」という表記を用いる自治体も増えつつある。

第５章　家族関係と自殺許容

青柳涼子

すでに第２章にて「配偶者の有無」「子どもの有無」と自殺許容態度に関しては基礎的な分析が行われている。それによれば、全体的には未婚者のほうが既婚者よりも自殺に許容的であり、子どもがいない人は子どもがいる人よりも自殺に許容的である傾向が見出されるものの、ただし、対象者の性別や年齢、子どもの年齢による違いがあることも確認された。

本章では、家族内の続柄を問わず、同居家族の有無および同居家族との関係満足度に注目する。一般的に人々の精神的安定に寄与することが期待される家族との関係性が個人の自殺許容態度とどのような関連性をもっているかを明らかにしていく。

１．同居家族の有無を知る項目

今回の調査票では、成人子・未成年子・配偶者との同別居関係を個別にたずねているほか、居住形態として、現在、一人暮らしであるかどうかをたずねている。一人暮らしではない、と回答する者の多くは家族と同居しているものと推察されるが、しかし、友人や恋人など家族以外の者と同居するケースも十分に含まれる可能性がある。そこで、同居する家族との関係性を問う質問項目を用いて、家族以外の者と同居中の対象者を抽出し、当該ケースを分析対象から除外した。具体的には、一人暮らしではないと回答し、かつ、同居家族との関係満足度に関する質問に対して「あてはまらない」と回答した７ケースを本章の分析対象外とした。

調査対象者のうち、現在、一人暮らしをしている者は 184 人（18.0%）で全体の２割に届かず、家族と同居している者は 836 人（82.0%）と大半を占める。男女別にみてみると、家族と同居している者の割合は、男性が 78.6%であるのに対して、女性は 85.4%となっており、女性のほうが７ポイントほど高い。表５－１に示されるように、同居家族の有無をあらわす居住形態については、性別によって有意な差が確認された（１%水準)。

表５－１　性別にみた居住形態

性別		居住形態		χ^2値	p 値	
		一人暮らし	家族と同居			
男性	(n=514)	21.4%	78.6%	7.919	0.006	**
女性	(n=506)	14.6%	85.4%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

性別・年齢別に居住形態をみてみると、男性は１%水準で、女性は 0.1%水準で有意な差がみられた（表５－２)。男性の場合、20 代から 40 代にかけて年齢の上昇とともに家族と同居する比率が高まっている。一方、女性の場合は、20 代と 30 代とのあいだに 20 ポイントもの大きな差が確認される。家族と同居する女性の割合は 20 代では 72.8%であったが、30 代では 93.8%へと急増している。しかし、40 代では 83.2%と 30 代よりも 10 ポイントほど低い。家族と同居する者の割合は、男女ともに、基本的には年齢の上昇とともに高まる傾向が読み取れるが、今回の調査では 30 代女性の家族との同居率が顕著に高いという結果が得られている（表５－２)。

表５－２　性別・年齢別にみた居住形態

性別	年齢		居住形態		χ^2値	p 値	
			一人暮らし	家族と同居			
男性	20代	(n=106)	34.0%	66.0%	13.901	0.003	**
	30代	(n=131)	21.4%	78.6%			
	40代	(n=153)	15.7%	84.3%			
	50代	(n=124)	17.7%	82.3%			
女性	20代	(n=103)	27.2%	72.8%	22.629	0.000	***
	30代	(n=128)	6.3%	93.8%			
	40代	(n=149)	16.8%	83.2%			
	50代	(n=126)	10.3%	89.7%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

以上の分析から、調査対象者の約８割が現在、家族と同居をしていること、その比率は性別や年齢によって差異があることが明らかになった。次項では、家族と同居する者に限定し、同居家族との関係満足度について考察する。

２．同居家族との関係満足度を知る項目

今回の調査票では、同居家族との関係性に対する満足度を、「満足している」「どちらかと言えば満足している」「どちらともいえない」「どちらかと言えば不満である」「不満である」「あてはまらない」の６件法で得ている。ここでは、「あてはまらない」と回答した 184 ケースを除外し、同居家族がいる者（836 ケース）を分析対象にする。

表５－３は、性別と家族関係満足度のクロス集計およびχ^2検定の結果である。男女ともに「満足している」「どちらかと言えば満足している」が 30%台であり、両者を足しあげると約７割に達する。「不満である」「どちらかと言えば不満である」も、男女ともそれぞれ７～８％程度で、両者を足しあげても 15%ほどにとどまる。「どちらとも言えない」という回答も 15%前後みられるが、同居家族への満足度は総じて高いといってよいだろう。同居家族に対する満足度について、性別による有意な差は確認されなかった（表５－３）。

表５－３　性別にみた家族関係満足度

性別		同居している家族との関係					χ^2値	p 値
		満足している	どちらかと言えば満足している	どちらとも言えない	どちらかと言えば不満である	不満である		
男性	(n=404)	33.2%	34.7%	17.6%	6.7%	7.9%	2.407	0.661
女性	(n=432)	37.0%	33.8%	14.6%	7.4%	7.2%		

以下、家族関係満足度を使用したいくつかの分析をするにあたり、サンプルサイズが小さくなることを避けるため、「満足している」と「どちらかと言えば満足している」を「満足」群、「どちらかと言えば不満である」と「不満である」を「不満足」群としてまとめ、結果的に「満足」「どちらともいえない」「不満」の３グループにカテゴリー化した。

年齢と家族関係満足度（10 歳刻み）とのクロス集計およびχ^2検定を行ったところ、年齢と家族関係満足度には有意な関連はなかった（図表なし）。しかし、表５－４のとおり、男女別に年齢と家族関係満足度の関連をみてみると、女性についてのみ、両者のあいだに有意な差が認められた（５％水準）。

女性の場合、「満足」群の割合は 20 代で 81.3%と８割を超えているが、30 代では 75%、40 代では 62.1%となっており、50 代でいくぶん上昇するものの、基本的には年齢の上昇にともない低下する傾向がある。他方、「不満足」群の割合は、年齢の上昇とともに高まっている。「どちらとも言えない」という回答は、40 代女性においておよそ２割を占めている。

男性の場合、女性とは異なり、年齢の上昇にともなって「満足」群の割合が上昇し、「不満足」群の割合が低下する傾向が確認される（ただし、統計的には有意ではない）。とくに 20 代男性では、４人に１人が「不満である」あるいは「どちらかといえば不満である」と回答していることが明らかになった。

表５－４　性別・年齢別にみた家族関係満足度

性別	年齢		同居している家族との関係			χ^2値	p 値	
			満足	どちらとも言えない	不満足			
男性	20代	(n=70)	60.0%	14.3%	25.7%	10.492	0.105	n.s
	30代	(n=103)	69.9%	19.4%	10.7%			
	40代	(n=129)	68.2%	16.3%	15.5%			
	50代	(n=102)	70.6%	19.6%	9.8%			
女性	20代	(n=75)	81.3%	8.0%	10.7%	14.765	0.022	*
	30代	(n=120)	75.0%	13.3%	11.7%			
	40代	(n=124)	62.1%	22.6%	15.3%			
	50代	(n=113)	69.0%	11.5%	19.5%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

配偶関係と家族関係満足度とのクロス集計およびχ^2検定を行ったところ、配偶関係と家族関係満足度には有意な関連がみられた。既婚者は未婚者よりも同居している家族との関係に対する満足度が高い傾向がある。家族関係に満足している者の割合は、未婚者では 54.8%と半数を少し上回る程度だが、既婚者では 75.3%と 20 ポイントほど高い。こうした満足度の差異は、調査対象者の家族が、いわば選択の余地のない定位家族であるのか、それとも結婚という自らの選択によって形成された生殖家族であるのか、という差異から生じていると考えてよいだろう。なお、男女別に配偶関係と家族関係満足度の関連をみたところ、男女ともに、既婚者のほうが未婚者よりも同居家族への満足度が高いという結果が得られている（図表なし）。

表５－５　配偶関係別にみた家族関係満足度

配偶関係		同居している家族との関係			χ^2値	p 値	
		満足	どちらとも言えない	不満足			
未婚	(n=241)	54.8%	24.5%	20.7%	34.292	0.000	***
既婚	(n=595)	75.3%	12.6%	12.1%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

では、同居家族のなかに未成年子がいる場合といない場合とでは家族満足度に違いがあるだろうか。表５－６に示されるように、未成年子が同居している者はそうではない者に比べて家族関係に満足している傾向がある（10%水準）。ただし、男女別に同居未成年子の有無と家族関係満足度の関連をみたところ、男女ともに両者には統計上有意な関連はみられなかった（図表なし）。

表５－６　同居する未成年子の有無別にみた家族関係満足度

同居する未成年子		同居している家族との関係			χ^2値	p値	
		満足	どちらとも言えない	不満足			
あり	(n=373)	73.2%	14.2%	12.6%	4.635	0.099	†
なし	(n=463)	66.3%	17.5%	16.2%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

ここまでのところをまとめると、男女ともに同居家族に対する関係満足度は比較的に高いものの、女性は年齢の上昇とともに低下する傾向があること、未婚者は既婚者に比べて明らかに満足度が低いこと、未婚子が同居しているか否かは家族関係満足度と関連性がないことが明らかになった。

では、同居家族の有無と同居家族との関係満足度は、個人の自殺許容態度と関連があるだろうか。次項ではそれらの点について分析していく。

３．同居家族の有無と自殺許容態度

表５－７は、同居家族の有無をあらわす居住形態を独立変数、「自殺は絶対にすべきではない」という問いに対する回答を従属変数とするクロス集計およびχ^2検定を行った結果である。なお、調査票では「自殺は絶対にすべきではない」という考えに対する回答を「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」という５件法で得ているが、今回は「わからない」を除外し、「そう思う」と「ややそう思う」を「そう思う」群、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を「そう思わない」群としてカテゴリー化した。

表５－７に示されるとおり、居住形態と自殺許容態度のあいだに統計的に有意な関連はみられない。換言すれば、同居家族の有無と自殺許容態度のあいだには関連がないといえる。

表５－７　居住形態別にみた自殺許容態度

居住形態		自殺は絶対にすべきではない		χ^2値	p値
		そう思う	そう思わない		
一人暮らし	(n=161)	65.8%	34.2%	1.568	0.219
家族と同居	(n=754)	70.8%	29.2%		

表５－８　性別・居住形態別にみた自殺許容態度

性別	居住形態		自殺は絶対にすべきではない		χ^2値	p値	
			そう思う	そう思わない			
男性	一人暮らし	(n=94)	67.0%	33.0%	0.027	0.869	n.s
	家族と同居	(n=363)	66.1%	33.9%			
女性	一人暮らし	(n=67)	64.2%	35.8%	3.569	0.059	†
	家族と同居	(n=391)	75.2%	24.8%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

表５－９　年齢・居住形態別にみた自殺許容態度

年齢	居住形態		自殺は絶対にすべきではない		χ^2値	p値	
			そう思う	そう思わない			
20代	一人暮らし	(n=57)	66.7%	33.3%	0.001	0.973	n.s
	家族と同居	(n=131)	66.4%	33.6%			
30代	一人暮らし	(n=30)	46.7%	53.3%	4.866	0.027	*
	家族と同居	(n=196)	67.3%	32.7%			
40代	一人暮らし	(n=45)	73.3%	26.7%	0.123	0.726	n.s
	家族と同居	(n=229)	73.3%	26.7%			
50代	一人暮らし	(n=29)	72.4%	27.6%	0.334	0.563	n.s
	家族と同居	(n=198)	77.3%	22.7%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

表５－８は性別、表５－９は年齢の要素を加え、それぞれ二重クロス集計およびχ^2検定を行った結果である。同居家族の有無と自殺許容態度の関連は、女性に限ってみると 10%水準で有意な差がみられる（表５－８）。同居家族のいる女性は一人暮らしの女性よりも、自殺を許容しない傾向がある。年齢別にみてみると、30 代においてのみ５％水準で有意な差がみられる（表５－９）。30 代で同居家族のいる者は一人暮らしの者よりも、自殺を許容しない傾向がみられた。

しかしながら、以上の分析からいえることは、同居家族の有無と自殺許容態度とのあいだには、一部を除きほとんど関連性がないということである。

４．家族関係満足度と自殺許容態度

この項では、同居家族との関係性に対する満足度と自殺許容態度との関連を分析する。

表５－10 に示されるとおり、家族関係満足度と自殺許容態度のあいだには、0.1%水準で統計的に有意な差がある。家族関係満足度によって分けた３グループのうち、「満足」群は「自殺は絶対にすべきでない」という考えに対し 76.5%が「そう思う」ないし「ややそう思う」と回答している。その比率は、「どちらともいえない」や「不満足」群では、60%以下にとどまっている。

表５－10　家族関係満足度と自殺許容態度

同居家族との関係		自殺は絶対にすべきではない		χ^2値	p 値	
		そう思う	そう思わない			
満足	(n=533)	76.5%	23.5%			
どちらとも言えない	(n=112)	58.9%	41.1%	29.251	0.000	***
不満足	(n=109)	55.0%	45.0%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

表５－11　性別にみた家族関係満足度と自殺許容態度

性別	同居家族との関係		自殺は絶対にすべきではない		χ^2値	p 値	
			そう思う	そう思わない			
	満足	(n=253)	71.5%	28.5%			
男性	どちらとも言えない	(n=61)	54.1%	45.9%	10.984	0.004	**
	不満足	(n=49)	53.1%	46.9%			
	満足	(n=280)	81.1%	18.9%			
女性	どちらとも言えない	(n=51)	64.7%	35.3%	19.234	0.000	***
	不満足	(n=60)	56.7%	43.3%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

性別変数を加えて二重クロス集計を行ってみると（表５－11)、男女とも、家族関係満足度と自殺許容態度のあいだに有意な関連が見られた（ただし、男性は 1%水準、女性は 0.1%水準)。男性も女性も、家族関係に満足していると自殺に対して許容的ではない傾向がある。

つぎに、年齢別に両者の関連を分析してみると（表５－12)、30 代・40 代・50 代において有意な関連が確認される。３つのいずれの年齢層においても、同居する家族関係に満足している者はそうではない者に比べて自殺に許容的ではない。

表５－12　年齢別にみた家族関係満足度と自殺許容態度

年齢	同居家族との関係		自殺は絶対にすべきではない		χ^2値	p 値	
			そう思う	そう思わない			
20代	満足	(n=96)	71.9%	28.1%	4.861	0.088	†
	どちらとも言えない	(n=13)	53.8%	46.2%			
	不満足	(n=22)	50.0%	50.0%			
30代	満足	(n=145)	73.8%	26.2%	12.467	0.002	**
	どちらとも言えない	(n=30)	56.7%	43.3%			
	不満足	(n=21)	38.1%	61.9%			
40代	満足	(n=151)	76.2%	23.8%	7.006	0.030	*
	どちらとも言えない	(n=41)	56.1%	43.9%			
	不満足	(n=37)	64.9%	35.1%			
50代	満足	(n=141)	83.0%	17.0%	9.772	0.008	**
	どちらとも言えない	(n=28)	67.9%	32.1%			
	不満足	(n=29)	58.6%	41.4%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1
ただし、20代については、1セル（16.7%）が期待度数5未満である。

表５－13　未既婚別にみた家族関係満足度と自殺許容態度

配偶関係	同居家族との関係		自殺は絶対にすべきではない		χ^2値	p 値	
			そう思う	そう思わない			
未婚	満足	(n=121)	66.9%	33.1%	4.520	0.104	
	どちらとも言えない	(n=42)	54.8%	45.2%			
	不満足	(n=40)	50.0%	50.0%			
既婚	満足	(n=412)	79.4%	20.6%	21.308	0.000	***
	どちらとも言えない	(n=70)	61.4%	38.6%			
	不満足	(n=69)	58.0%	42.0%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

配偶関係別に家族関係満足度と自殺許容態度の関連をみてみると、表５－13 が示すように、未婚者の場合には同居家族との関係に対する満足度は自殺許容態度と関連がないが、既婚者の場合には同居家族との関係性に対する満足度が自殺許容態度と明確に関連している。「自殺は絶対にすべきではない」という考えに対する「そう思う」群の割合は、既婚者で家族関係に満足している者の場合には約８割を占めるが、「どちらとも言えない」者や「不満足」群では約６割となっており、これらの差はχ^2検定では 0.1%水準で有意である。

表５－14　同居する未婚子の有無別にみた家族関係満足度と自殺許容態度

同居する未成年子	同居家族との関係		自殺は絶対にすべきではない		χ^2値	p値	
			そう思う	そう思わない			
あり	満足	(n=256)	77.7%	22.3%	14.280	0.001	**
	どちらとも言えない	(n=49)	59.2%	40.8%			
	不満足	(n=45)	55.6%	44.4%			
なし	満足	(n=277)	75.5%	24.5%	14.714	0.001	**
	どちらとも言えない	(n=63)	58.7%	41.3%			
	不満足	(n=64)	54.7%	45.3%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

最後に、同居する未婚子の有無別に、家族関係満足度と自殺許容態度との関連を見てみると、未成年子が同居しているか否かに関わらず、同居家族との関係満足度が高い場合には自殺に対して許容的ではないことが表５－14から読み取れる。なお、男女別に行ってみると、未成年子と同居していない男性だけに、家族関係満足度の高低と自殺許容態度とのあいだに明確な関連があるとはいえない結果が得られている（図表なし）。

５．まとめ

以上の分析をとおして明らかになったことは、「自殺は絶対にすべきではない」という考えに対する回答で測られる自殺許容態度は、同居家族の有無との関連はほとんどなく、同居家族との関係満足度と有意に関連しているということである。同居家族との関係に満足している人は、自殺という行為に対して否定的な考えを有していた。当然のことながら、本章で得られた知見は、同居家族がいることが自殺という行為を抑止する効果をもつかもしれない可能性を否定するものではない。とはいえ、本章での分析から、既婚で同居家族を有する者でも、その家族関係に不満を感じている者は未婚者と同程度に自殺に対して許容的な考えを有していることが明らかになった。同居家族がいれば良いということではなく、その関係性に注視することが重要であることを示唆するものといえるだろう。そのような視点から、変数間の影響関係を統制した分析作業を行うことを今後の課題としたい。

第６章　地域社会とのつながりと自殺許容

山本　功

この章では、地域社会とのつながりが、自殺許容態度にどのような関連があるのかを分析していく。デュルケム（1897=1985）の『自殺論』における「自己本位的自殺」という概念に照らせば、地域社会とのつながりは、自殺を抑止する効果があることが見込まれる。本調査では、自殺それ自体ではなく、自殺を許容する態度を測定しているが、地域社会とのつながりと自殺許容態度との関連を分析し報告することは、自殺対策政策に貢献するものであると考えられる。

１．地域社会とのつながりを測定する項目

地域社会とのつながりを測定する項目として、２種類のものを利用する。ひとつは、町内会や地域のスポーツ団体、祭りなどの地域の行事、近隣の子どもの認知といった、地域集団レベルでのつながりを測定するものである。近隣の子どもの認知はややレベルを異にするが、これは子ども会や学校とのつながりなど、他の諸々の社会関係と関連していることが予想される。以下の４項目である。設問は、「あなたと地域とのかかわりについて、おたずねします」である。回答は、あてはまる・どちらかというとあてはまる・どちらかというとあてはまらない・あてはまらない、の４件法である。前２者を統合して「あてはまる」とし、後２者を統合して「あてはまらない」とし、２群化して分析に用いる。

・町内会、自治会活動に積極的に参加している。
・地域のスポーツ団体やボランティア団体に積極的に参加している。
・近所の小・中学生がどこの子どもか知っている。
・祭りなど地域の行事によく参加している。

いまひとつは、近隣の人間関係を測定するものである。以下の５項目を用いる。設問は、「あなたは、近隣に次のような方がいらっしゃいますか」である。回答は、たくさんいる・数人いる・一人二人いる・いない、の４件法である。「たくさんいる」から「一人二人いる」までの３件を統合して「いる」とし、「いない」という回答はそのまま扱い、いるかいないかの２群化して分析に用いる。

・庭先や道端で会うとよく立ち話をする人。
・互いの家によく訪問し合う人。
・よくおすそ分けし合う人。
・家族ぐるみのつきあいをしている人。
・よく一緒に外出するような関係の人。

２．地域社会とのつながりの年代別・性別の分析

本章で分析対象とする地域社会とのつながりは、年代や性別によって異なることが予想される。もし年代や性別によって違いがないようであれば、単純に地域社会と自殺許容との関連を分析す

ればよいが、そもそも地域社会とのつながりに年代や性別による違いがあるようであれば、年代別・性別の分析が必要となる。そこで、まずは年代別、性別の分析を行う。なお年代は、20 代から 50 代まで 10 歳刻みとした。

（１）年代別にみた地域社会とのつながり

まずは、年代別の地域社会とのつながりをみていく。表６－１は、地域集団とのつながりを年代別に集計した結果である。

表６－１　年代別にみた地域集団とのつながり

	年代	あてはまる	あてはまらない	人数（人）	χ^2値	p値	
町内会、自治会活動に積極的に参加している	20代	7.5%	92.5%	212	22.291	0.000	***
	30代	18.5%	81.5%	260			
	40代	21.4%	78.6%	304			
	50代	23.1%	76.9%	251			
地域のスポーツ団体やボランティア団体に積極的に参加している	20代	9.4%	90.6%	212	3.623	0.305	n.s
	30代	10.4%	89.6%	260			
	40代	13.8%	86.2%	304			
	50代	9.6%	90.4%	251			
近所の小・中学生がどこの子どもか知っている	20代	11.3%	88.7%	212	26.660	0.000	***
	30代	25.4%	74.6%	260			
	40代	29.6%	70.4%	304			
	50代	19.5%	80.5%	251			
祭りなど地域の行事によく参加している	20代	15.6%	84.4%	212	11.130	0.011	*
	30代	23.1%	76.9%	260			
	40代	23.7%	76.3%	304			
	50代	14.7%	85.3%	251			

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$

町内会、自治会活動への参加は、年代が上がるにつれて増加していく関連がみられる。20 代では 7.5%と１割に満たないが、50 代では 23.1%と４分の１近くが参加していると回答している。カイ二乗検定では、0.1%水準で有意な差であった。

地域のスポーツ団体やボランティア団体への参加は、年代による違いはみられなかった。いずれの年代も１割前後であった。統計的有意差も検出されなかった。

近隣の子どもの認知は、年代による違いがみられるが、直線的な関連になっていない。あてはまるという回答比率を 20 代から 50 代までみていくと、11.3%→25.4%→29.6%→19.5%となっている。すなわち、20 代より 30 代が高く、40 代はより高いが、50 代で低下するという動き方である。これは、単に年代との関連だけではなく、自身の子の有無とその子どもの年齢とも関連していることが予想されるが、本章では立ち入らないこととする。カイ二乗検定の結果、0.1%水準で有意な差がみられた。

祭りなどの地域行事への参加も、年代に年代による違いがみられるが、直線的な関連になっていない。あてはまるという回答比率を 20 代から 50 代までみていくと、15.6%→23.1%→23.7%→14.7%となっている。すなわち、20 代より 30 代が高く、40 代は 30 代と同水準、50 代で低下

するという動き方である。この項目に関しても、自身の子の有無との関連が予想されるが、本章では立ち入らないこととする。カイ二乗検定の結果、５％水準で有意な差がみられた。

ついで、表６－２に年代別にみた近隣の人間関係の集計結果を示した。

表６－２　年代別にみた近隣の人間関係

	年代	いる	いない	人数（人）	χ^2値	p値	
庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	20代	25.0%	75.0%	212	56.288	0.000	***
	30代	43.1%	56.9%	260			
	40代	47.4%	52.6%	304			
	50代	59.4%	40.6%	251			
互いの家によく訪問し合う人	20代	27.4%	72.6%	212	3.930	0.269	n.s
	30代	35.4%	64.6%	260			
	40代	31.3%	68.8%	304			
	50代	33.9%	66.1%	251			
よくおすそ分けし合う人	20代	21.2%	78.8%	212	22.461	0.000	***
	30代	33.1%	66.9%	260			
	40代	37.2%	62.8%	304			
	50代	41.0%	59.0%	251			
家族ぐるみのつきあいをしている人	20代	24.5%	75.5%	212	11.028	0.012	*
	30代	37.7%	62.3%	260			
	40代	35.9%	64.1%	304			
	50代	31.1%	68.9%	251			
よく一緒に外出するような関係の人	20代	42.0%	58.0%	212	0.667	0.881	n.s
	30代	43.1%	56.9%	260			
	40代	40.1%	59.9%	304			
	50代	40.2%	59.8%	251			

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$

庭先や道端で立ち話をする人の有無をみると、年代が上がるほどいる割合が増加していくという関連がみられた。20 代から 50 代まで順にいるという構成比をみると、25.0%→43.1%→47.4%→59.4%となる。カイ二乗検定の結果、0.1%水準で有意な差であった。

互いの家によく訪問し合う人に関しては、年代による違いはみられなかった。どの年代もおおむね３割前後であり、統計的有意差もなかった。

おすそ分けし合う人に関しては、上記でみた庭先などで立ち話する人と同様、年代が上がるほどいる割合が増加していくという関連がみられた。20 代から 50 代まで順にいるという構成比をみると、21.2%→33.1%→37.2%→41.0%となる。カイ二乗検定の結果、0.1%水準で有意な差であった。

家族ぐるみのつきあいをしている人は、年代による違いがみられたが、直線的な関連になっていなかった。20 代よりも 30 代、40 代の方が高い割合であるが、50 代になるとわずかに低下していた。カイ二乗検定の結果、５％水準で有意な差がみられた。

よく一緒に外出する人に関しては、年代による違いはみられなかった。どの年代も４割前後であり、統計的有意差もみられなかった。

以上の結果をみると、地域社会とのつながりは、年代によって違いがみられる項目とそうでもない項目が混在しており、年代という要因を統制せずに自殺許容との関連を分析することは望ま

しくないということが明らかになった。

（２）性別にみた地域社会とのつながり

ついで、上記と同様の分析を性別に行っていく。表６－３は、性別に地域社会とのつながりをクロス集計した結果である。

表６－３　性別にみた地域集団とのつながり

	性別	あてはまる	あてはまらない	人数（人）	χ^2値	p値	
町内会、自治会活動に積極的に参加している	男性	15.4%	84.6%	519	5.500	0.019	*
	女性	21.1%	78.9%	508			
地域のスポーツ団体やボランティア団体に積極的に参加している	男性	11.6%	88.4%	519	0.333	0.564	n.s
	女性	10.4%	89.6%	508			
近所の小・中学生がどこの子どもか知っている	男性	17.1%	82.9%	519	16.059	0.000	***
	女性	27.6%	72.4%	508			
祭りなど地域の行事によく参加している	男性	16.6%	83.4%	519	6.376	0.012	*
	女性	22.8%	77.2%	508			

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$

表６－４　性別にみた近隣の人間関係

	性別	あてはまる	あてはまらない	人数（人）	χ^2値	p値	
庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	男性	34.9%	65.1%	519	40.130	0.000	***
	女性	54.5%	45.5%	508			
互いの家によく訪問し合う人	男性	23.1%	76.9%	519	39.068	0.000	***
	女性	41.3%	58.7%	508			
よくおすそ分けし合う人	男性	24.7%	75.3%	519	39.051	0.000	***
	女性	43.1%	56.9%	508			
家族ぐるみのつきあいをしている人	男性	26.4%	73.6%	519	19.598	0.000	***
	女性	39.4%	60.6%	508			
よく一緒に外出するような関係の人	男性	33.1%	66.9%	519	28.713	0.000	***
	女性	49.6%	50.4%	508			

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$

町内会等への参加は、女性の方があてはまるとする割合が 5.7 ポイント多い。カイ二乗検定では５％水準で有意な差であった。地域のスポーツ団体やボランティア団体への参加では性差がみられなかった。男女ともに１割程度で同水準であった。近隣の子どもの認知は、女性の方があてまるとする割合が 10.5 ポイント高く、カイ二乗検定では 0.1％水準で有意な差であった。祭りなどへの参加も女性の方が 6.2 ポイント高く、カイ二乗検定では５％水準で有意な差であった。

以上、地域集団とのつながりに関しては、４項目中３項目において有意な差がみられたが、いずれも女性の方が地域集団とのつながりをもっているという結果であった。

ついで、近隣の人間関係のあり方をみてみると、５項目すべてにおいて性別による有意な差がみられた。すべての項目において、女性の方が近隣との人間関係をもっているという結果であり、いずれもカイ二乗検定では 0.1％水準の有意差であった。

なお、全項目において有意であるため、参考までに性別との関連の度合いを測定するためにφ係数を算出した。その結果、庭先や道端で立ち話ではφ=0.189、互いの家によく訪問φ=0.195、おすそ分けφ=0.195、家族ぐるみのつきあいφ=0.138、よく一緒に外出φ=0.167 となった。互い

の訪問、おすそ分けという行動において性差が強くみられた。

以上の結果をみると、地域社会とのつながりは、性別によって違いがみられる項目が多く、とりわけ近隣との人間関係は性別による違いが明瞭にみられた。この結果を踏まえれば、性別という要因を統制せずに自殺許容との関連を分析することは望ましくない。

３．年代と性別を統制した地域社会とのつながりと自殺許容との関連の分析

本章の目的は地域社会とのつながりと自殺許容との関連を分析することにあったが、前節でみたように、年代と性別によって地域社会とのつながりのあり方に違いがあった。そこで、年代と性別の影響を除去するために、まずサンプルを年代かつ性別の８類型（20 代男性、20 代女性～50 代男性、50 代女性）に区分し、そのうえで地域社会のつながりを測定する９項目を独立変数とするクロス集計を行うこととした。

従属変数としては、「自殺は絶対にすべきではない」という項目を用いる。これが何の条件も付せずに、もっとも直截に自殺許容を測定した設問だからである。「わからない」という回答を欠損値とし、「そう思う」と「ややそう思う」を統合し、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を統合して回答を２群化して分析に用いた。

以上の操作で、８類型×９独立変数×１従属変数の計 72 通りのクロス集計を行った。ただし、個々のクロス集計においてサンプルサイズが小さくなるため、カイ二乗検定ではなくフィッシャーの直接確率検定の p 値を参照することとした。

すべてのクロス集計結果を表示するとあまりに煩瑣であるため、ひとつ以上フィッシャーの直接確率検定で 10％水準の傾向差以上の有意差が検出された項目のみを表にて提示することとする。なお、「町内会、自治会活動に積極的に参加」「地域のスポーツ団体やボランティア団体に積極的に参加」「近所の小・中学生がどこの子どもか知っている」の３項目は、すべての年代別性別類型において有意な差が検出されなかった。

表６－５　年代別性別にみた祭りなど行事参加と自殺許容

年代・性別	独立変数		自殺は絶対にすべきではない。 そう思う	そう思わない	人数（人）	p値	
20代男性	祭りなど地域の行事によく参加している	あてはまる	60.0%	40.0%	10	1.000	n.s
		あてはまらない	57.3%	42.7%	82		
20代女性	祭りなど地域の行事によく参加している	あてはまる	76.2%	23.8%	21	1.000	n.s
		あてはまらない	72.7%	27.3%	77		
30代男性	祭りなど地域の行事によく参加している	あてはまる	63.6%	36.4%	22	1.000	n.s
		あてはまらない	61.8%	38.2%	89		
30代女性	祭りなど地域の行事によく参加している	あてはまる	70.6%	29.4%	34	0.668	n.s
		あてはまらない	65.4%	34.6%	81		
40代男性	祭りなど地域の行事によく参加している	あてはまる	70.0%	30.0%	30	0.830	n.s
		あてはまらない	67.3%	32.7%	113		
40代女性	祭りなど地域の行事によく参加している	あてはまる	86.5%	13.5%	37	0.073	†
		あてはまらない	70.5%	29.5%	95		
50代男性	祭りなど地域の行事によく参加している	あてはまる	90.0%	10.0%	20	0.096	†
		あてはまらない	71.3%	28.7%	94		
50代女性	祭りなど地域の行事によく参加している	あてはまる	92.9%	7.1%	14	0.294	n.s
		あてはまらない	77.0%	23.0%	100		

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$（但し Fisher の直接確率検定）

祭りなど行事参加に関しては、40 代女性と 50 代男性において 10%水準の傾向差があった。祭りなど行事に参加する 40 代女性、50 代男性は自殺を許容しない傾向がみられた。

表６－６　年代別性別にみた近隣での立ち話と自殺許容

年代・性別	独立変数		自殺は絶対にすべきではない。 そう思う	そう思わない	人数（人）	p値	
20代男性	庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	いる	68.4%	31.6%	19	0.312	n.s
		いない	54.8%	45.2%	73		
20代女性	庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	いる	67.9%	32.1%	28	0.454	n.s
		いない	75.7%	24.3%	70		
30代男性	庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	いる	62.2%	37.8%	37	1.000	n.s
		いない	62.2%	37.8%	74		
30代女性	庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	いる	76.1%	23.9%	67	0.017	*
		いない	54.2%	45.8%	48		
40代男性	庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	いる	79.2%	20.8%	53	0.027	*
		いない	61.1%	38.9%	90		
40代女性	庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	いる	81.3%	18.8%	80	0.063	†
		いない	65.4%	34.6%	52		
50代男性	庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	いる	80.0%	20.0%	55	0.282	n.s
		いない	69.5%	30.5%	59		
50代女性	庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	いる	82.7%	17.3%	81	0.135	n.s
		いない	69.7%	30.3%	33		

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$（但し Fisher の直接確率検定）

近隣で立ち話をする人がいるかどうかに関しては、30 代女性、40 代男性では５％水準で有意な差が、40 代女性で 10%水準の傾向差がみられた。30 代女性、40 代男性、40 代女性では、近隣で立ち話をする人がいると自殺を許容しない傾向にあった。

表６－７　年代別性別にみた近隣での相互訪問と自殺許容

年代・性別	独立変数		自殺は絶対にすべきではない。 そう思う	そう思わない	人数（人）	p値	
20代男性	互いの家によく訪問し合う人	いる	72.7%	27.3%	22	0.138	n.s
		いない	52.9%	47.1%	70		
20代女性	互いの家によく訪問し合う人	いる	78.8%	21.2%	33	0.473	n.s
		いない	70.8%	29.2%	65		
30代男性	互いの家によく訪問し合う人	いる	70.0%	30.0%	30	0.380	n.s
		いない	59.3%	40.7%	81		
30代女性	互いの家によく訪問し合う人	いる	82.1%	17.9%	56	0.001	**
		いない	52.5%	47.5%	59		
40代男性	互いの家によく訪問し合う人	いる	81.3%	18.8%	32	0.086	†
		いない	64.0%	36.0%	111		
40代女性	互いの家によく訪問し合う人	いる	84.5%	15.5%	58	0.028	*
		いない	67.6%	32.4%	74		
50代男性	互いの家によく訪問し合う人	いる	89.7%	10.3%	29	0.046	*
		いない	69.4%	30.6%	85		
50代女性	互いの家によく訪問し合う人	いる	86.7%	13.3%	45	0.158	n.s
		いない	73.9%	26.1%	69		

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$（但し Fisher の直接確率検定）

近隣に相互訪問する人がいるかどうかでは、30 代女性は１％水準で、40 代男性は 10%水準傾向差で、40 代女性と 50 代男性はともに５％水準で有意差がみられた。いずれも、近所に相互訪

問する人がいると自殺を許容しなくなる方向であった。

表６－８　年代別性別にみた近隣とのおすそ分けと自殺許容

年代・性別	独立変数		自殺は絶対にすべきではない。 そう思う	そう思わない	人数（人）	p値	
20代男性	よくおすそ分けし合う人	いる	61.1%	38.9%	18	0.796	n.s
		いない	56.8%	43.2%	74		
20代女性	よくおすそ分けし合う人	いる	76.0%	24.0%	25	0.800	n.s
		いない	72.6%	27.4%	73		
30代男性	よくおすそ分けし合う人	いる	68.0%	32.0%	25	0.640	n.s
		いない	60.5%	39.5%	86		
30代女性	よくおすそ分けし合う人	いる	78.6%	21.4%	56	0.011	*
		いない	55.9%	44.1%	59		
40代男性	よくおすそ分けし合う人	いる	76.6%	23.4%	47	0.131	n.s
		いない	63.5%	36.5%	96		
40代女性	よくおすそ分けし合う人	いる	80.3%	19.7%	61	0.229	n.s
		いない	70.4%	29.6%	71		
50代男性	よくおすそ分けし合う人	いる	87.9%	12.1%	33	0.056	†
		いない	69.1%	30.9%	81		
50代女性	よくおすそ分けし合う人	いる	83.1%	16.9%	59	0.358	n.s
		いない	74.5%	25.5%	55		

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$（但しFisherの直接確率検定）

近隣におすそ分けし合う人がいるかどうかでは、30代女性が５％水準で、50代男性では10%水準傾向差で、有意な差がみられた。近隣におすそ分けし合う人がいると自殺を許容しなくなる方向であった。

表６－９　年代別性別にみた近隣での家族ぐるみ交流と自殺許容

年代・性別	独立変数		自殺は絶対にすべきではない。 そう思う	そう思わない	人数（人）	p値	
20代男性	家族ぐるみのつきあいをしている人	いる	61.1%	38.9%	18	0.796	n.s
		いない	56.8%	43.2%	74		
20代女性	家族ぐるみのつきあいをしている人	いる	79.3%	20.7%	29	0.461	n.s
		いない	71.0%	29.0%	69		
30代男性	家族ぐるみのつきあいをしている人	いる	75.9%	24.1%	29	0.118	n.s
		いない	57.3%	42.7%	82		
30代女性	家族ぐるみのつきあいをしている人	いる	73.8%	26.2%	61	0.115	n.s
		いない	59.3%	40.7%	54		
40代男性	家族ぐるみのつきあいをしている人	いる	75.0%	25.0%	48	0.255	n.s
		いない	64.2%	35.8%	95		
40代女性	家族ぐるみのつきあいをしている人	いる	78.6%	21.4%	56	0.542	n.s
		いない	72.4%	27.6%	76		
50代男性	家族ぐるみのつきあいをしている人	いる	88.2%	11.8%	34	0.035	*
		いない	68.8%	31.3%	80		
50代女性	家族ぐるみのつきあいをしている人	いる	88.6%	11.4%	35	0.135	n.s
		いない	74.7%	25.3%	79		

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$（但しFisherの直接確率検定）

近隣に家族ぐるみで交流している人がいるかどうかでは、50代男性に５％水準で有意な差がみられた。近隣に家族ぐるみで交流している人がいる50代男性は、自殺を許容しなくなる方向であった。

表６－10　年代別性別にみた近隣との外出と自殺許容

年代・性別	独立変数		自殺は絶対にすべきではない。 そう思う	そう思わない	人数（人）	p値	
20代男性	よく一緒に外出するような関係の人	いる	65.0%	35.0%	40	0.287	n.s
		いない	51.9%	48.1%	52		
20代女性	よく一緒に外出するような関係の人	いる	73.3%	26.7%	45	1.000	n.s
		いない	73.6%	26.4%	53		
30代男性	よく一緒に外出するような関係の人	いる	65.8%	34.2%	38	0.681	n.s
		いない	60.3%	39.7%	73		
30代女性	よく一緒に外出するような関係の人	いる	78.1%	21.9%	64	0.005	**
		いない	52.9%	47.1%	51		
40代男性	よく一緒に外出するような関係の人	いる	77.6%	22.4%	49	0.090	†
		いない	62.8%	37.2%	94		
40代女性	よく一緒に外出するような関係の人	いる	83.1%	16.9%	65	0.045	*
		いない	67.2%	32.8%	67		
50代男性	よく一緒に外出するような関係の人	いる	81.8%	18.2%	33	0.344	n.s
		いない	71.6%	28.4%	81		
50代女性	よく一緒に外出するような関係の人	いる	86.2%	13.8%	58	0.067	†
		いない	71.4%	28.6%	56		

*** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$ † $p<0.1$（但しFisherの直接確率検定）

近隣に一緒に外出する人がいるかどうかでは、30代女性は１％水準で、40代男性は10%水準傾向差で、40代女性は５％水準で、50代女性は10%水準傾向差で、有意な差がみられた。いずれも、近隣に一緒に外出する人がいると、自殺を許容しなくなる方向であった。

以上の分析を概括する。統計的有意差あるいは傾向差が検出された年代・性別においては、いずれも地域社会とのつながりが自殺を許容しない方向での関連がみられた。したがって、おおむね、地域社会とのつながりは自殺許容度を低めることが見込まれる。これは、デュルケムの『自殺論』における命題と同一の結果である。やや控えめな表現をとるのは、年代別かつ性別に区分した分析を行うと、それぞれのサンプルサイズが小さくなるため、安定的な分析が困難であったからである。

ただし、20代男女、30代男性では地域社会とのつながりと、自殺許容との間になんら有意な関連が見いだせなかった。これらの年代性別にあっては、自殺許容態度を規定する何らかの別の要因の分析を探求すべきであろう。

また、この章では子どもの有無を分析に投入していないが、それに関しては第５章の分析を参照されたい。「地域社会とのつながり」は、直接的な個人レベルでのつながりに加え、家族とりわけ子どもを媒介としたつながりが少なからず大きな要因として考えられる。学校、PTA、子ども会といった中間集団を媒介してのつながりである。今後は、そうした因果連関を明らかにすることが課題として重要であるように思える。

引用文献

Durkheim,H., 1897, *Le suicide*, Presses Universitaires deFrance.,（=1985, 宮島喬訳『自殺論』中央公論社）.

あとがき

本科目「社会調査実習」は、（一社）社会調査協会によって認定される社会調査士資格を取得するための必須科目となっており、社会調査協会の定めるところによれば、本科目（＝社会調査協会が指定する「社会調査の実習を中心とする科目」）には、年間 30 回の授業を必要とする。「社会調査実習」はコミュニティ政策学部のカリキュラム編成上、前期に週２コマ、計 30 回という形をとることとなった。履修対象は３・４年生であり、本年度は３年生１名が履修した。社会調査士資格を取得するためには、本科目のほかに、１年次から２年次の間に５つの科目を修得している必要がある。したがって本報告書の作成は、１年次から始まっていたと言っても過言ではない。

はしがきにある通り、社会調査実習は他の科目と比較してもやるべきことが多い。具体的には、研究テーマの設定、仮説の検討、調査の方法論的枠組みと分析方法の検討、調査対象の選定と調査票の作成、実査、データの集計、結果の解析、そして報告書による成果の公表と、社会調査の一連の流れを経験する科目である。特に重要なのが研究テーマ決めであるが、本年度は「社会的つながりと自殺許容度の関連に関する調査研究」とした。非常に繊細な配慮を要する研究テーマであったため、従来までの紙媒体の調査ではなくインターネット調査を実施した。ゆえに、調査票の印刷や封筒の作成、切手貼り等の作業が発生しなかったため、例年に比べれば実査およびデータの集計にかかる労力は軽減されたと思われる。インターネット調査ゆえのサンプリング面の偏りを含めても、興味深い結果が得られたことは本報告書記載の通りである。

社会調査実習の集大成とも言える本報告書であるが、学生の努力の成果が発揮されたものであることは間違いない。社会調査実習という科目は、前期の授業が終了してからも報告書の作成という作業が引き続き伴うものである。自身の問題意識から仮説を導出し、その仮説に応じた統計解析をし、得られた結果を文章にまとめるという作業は、研究の営みに他ならない。当然困難もあっただろうが、最後まで根気強く作業に取り組んだ学生には、敬意を表したい。

我が国においては、自殺者数の増加が問題となって久しく、自殺対策は年々重大な課題となっている。本調査は、そのような実社会の問題を正面から見据えたものである。本報告書が人々にとって少しでも役に立つことができれば幸いである。

平成 28 年３月

社会調査助手　　渡辺 由希

基　礎　集　計　表

1　あなたが、以下のことにあてはまるかどうか、おたずねします。

1 没頭できる趣味がある。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	248	24.1	24.1	24.1
	どちらかというとあてはまる	409	39.8	39.8	64.0
	どちらかというとあてはまらない	193	18.8	18.8	82.8
	あてはまらない	167	16.3	16.3	99.0
	わからない	10	1.0	1.0	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 ずっと続けている趣味がある。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	256	24.9	24.9	24.9
	どちらかというとあてはまる	376	36.6	36.6	61.5
	どちらかというとあてはまらない	192	18.7	18.7	80.2
	あてはまらない	192	18.7	18.7	98.9
	わからない	11	1.1	1.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 夢中になれるものがある。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	266	25.9	25.9	25.9
	どちらかというとあてはまる	400	38.9	38.9	64.8
	どちらかというとあてはまらない	212	20.6	20.6	85.5
	あてはまらない	138	13.4	13.4	98.9
	わからない	11	1.1	1.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 時間をもてあますことが多い。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	55	5.4	5.4	5.4
	どちらかというとあてはまる	214	20.8	20.8	26.2
	どちらかというとあてはまらない	347	33.8	33.8	60.0
	あてはまらない	378	36.8	36.8	96.8
	わからない	33	3.2	3.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5 私には将来の目標がある。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	130	12.7	12.7	12.7
	どちらかというとあてはまる	274	26.7	26.7	39.3
	どちらかというとあてはまらない	320	31.2	31.2	70.5
	あてはまらない	264	25.7	25.7	96.2
	わからない	39	3.8	3.8	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

6 将来良いことがあるとは思えない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	101	9.8	9.8	9.8
	どちらかというとあてはまる	224	21.8	21.8	31.6
	どちらかというとあてはまらない	357	34.8	34.8	66.4
	あてはまらない	264	25.7	25.7	92.1
	わからない	81	7.9	7.9	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

7 世の中は良い方向に向かっていると思う。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	19	1.9	1.9	1.9
	どちらかというとあてはまる	151	14.7	14.7	16.6
	どちらかというとあてはまらない	444	43.2	43.2	59.8
	あてはまらない	298	29.0	29.0	88.8
	わからない	115	11.2	11.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

8 将来に不安を感じる。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	282	27.5	27.5	27.5
	どちらかというとあてはまる	452	44.0	44.0	71.5
	どちらかというとあてはまらない	189	18.4	18.4	89.9
	あてはまらない	77	7.5	7.5	97.4
	わからない	27	2.6	2.6	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

9 時間的にゆとりのある生活を送っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	119	11.6	11.6	11.6
	どちらかというとあてはまる	337	32.8	32.8	44.4
	どちらかというとあてはまらない	309	30.1	30.1	74.5
	あてはまらない	234	22.8	22.8	97.3
	わからない	28	2.7	2.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

10 経済的にゆとりのある生活を送っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	27	2.6	2.6	2.6
	どちらかというとあてはまる	227	22.1	22.1	24.7
	どちらかというとあてはまらない	294	28.6	28.6	53.4
	あてはまらない	393	38.3	38.3	91.6
	わからない	86	8.4	8.4	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

11 精神的にゆとりのある生活を送っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	54	5.3	5.3	5.3
	どちらかというとあてはまる	296	28.8	28.8	34.1
	どちらかというとあてはまらない	358	34.9	34.9	68.9
	あてはまらない	268	26.1	26.1	95.0
	わからない	51	5.0	5.0	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

12 現在の私の健康状態は、非常に良好である。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	86	8.4	8.4	8.4
	どちらかというとあてはまる	407	39.6	39.6	48.0
	どちらかというとあてはまらない	332	32.3	32.3	80.3
	あてはまらない	161	15.7	15.7	96.0
	わからない	41	4.0	4.0	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

２　以下のそれぞれの項目に、あなたのお考えはどの程度あてはまりますか。

1 自分のことで精一杯で、他人のことを考えるだけの余裕はない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	70	6.8	6.8	6.8
	どちらかというとあてはまる	293	28.5	28.5	35.3
	どちらかというとあてはまらない	320	31.2	31.2	66.5
	あてはまらない	275	26.8	26.8	93.3
	わからない	69	6.7	6.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 結局、人のことは自分とは関係ないことだ。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	71	6.9	6.9	6.9
	どちらかというとあてはまる	250	24.3	24.3	31.3
	どちらかというとあてはまらない	382	37.2	37.2	68.5
	あてはまらない	250	24.3	24.3	92.8
	わからない	74	7.2	7.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 自分ひとりが努力しても世の中はよくならない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	175	17.0	17.0	17.0
	どちらかというとあてはまる	394	38.4	38.4	55.4
	どちらかというとあてはまらない	293	28.5	28.5	83.9
	あてはまらない	125	12.2	12.2	96.1
	わからない	40	3.9	3.9	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 ボランティア活動や奉仕活動などに興味や関心はない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	135	13.1	13.1	13.1
	どちらかというとあてはまる	244	23.8	23.8	36.9
	どちらかというとあてはまらない	378	36.8	36.8	73.7
	あてはまらない	204	19.9	19.9	93.6
	わからない	66	6.4	6.4	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5 社会問題は自分の生活とはまったく関係ないことだと思う。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	35	3.4	3.4	3.4
	どちらかというとあてはまる	99	9.6	9.6	13.0
	どちらかというとあてはまらない	337	32.8	32.8	45.9
	あてはまらない	399	38.9	38.9	84.7
	わからない	157	15.3	15.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

6 政治や社会の問題など、難しいことを考えるのはめんどうである。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	85	8.3	8.3	8.3
	どちらかというとあてはまる	238	23.2	23.2	31.5
	どちらかというとあてはまらない	325	31.6	31.6	63.1
	あてはまらない	281	27.4	27.4	90.5
	わからない	98	9.5	9.5	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

7 何事も深く考えず、その場しのぎで過ごしている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	51	5.0	5.0	5.0
	どちらかというとあてはまる	200	19.5	19.5	24.4
	どちらかというとあてはまらない	367	35.7	35.7	60.2
	あてはまらない	306	29.8	29.8	90.0
	わからない	103	10.0	10.0	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

8 他人のことで自分の時間をとられたくない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	108	10.5	10.5	10.5
	どちらかというとあてはまる	275	26.8	26.8	37.3
	どちらかというとあてはまらない	396	38.6	38.6	75.9
	あてはまらない	189	18.4	18.4	94.3
	わからない	59	5.7	5.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

9 自分が損をしてまで、皆のために尽くすのはバカげたことだ。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	96	9.3	9.3	9.3
	どちらかというとあてはまる	207	20.2	20.2	29.5
	どちらかというとあてはまらない	431	42.0	42.0	71.5
	あてはまらない	216	21.0	21.0	92.5
	わからない	77	7.5	7.5	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3　次の特徴のおのおのについて、あなた自身にどの程度あてはまるかをお答え下さい。
他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自身をどのように思っているかを、ありのままにお答え下さい。

1 少なくとも人並みには、価値のある人間である。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	91	8.9	8.9	8.9
	どちらかというとあてはまる	388	37.8	37.8	46.6
	どちらかというとあてはまらない	390	38.0	38.0	84.6
	あてはまらない	104	10.1	10.1	94.7
	わからない	54	5.3	5.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 色々な良い素質をもっている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	84	8.2	8.2	8.2
	どちらかというとあてはまる	330	32.1	32.1	40.3
	どちらかというとあてはまらない	421	41.0	41.0	81.3
	あてはまらない	133	13.0	13.0	94.3
	わからない	59	5.7	5.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 敗北者だと思うことがよくある。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	106	10.3	10.3	10.3
	どちらかというとあてはまる	222	21.6	21.6	31.9
	どちらかというとあてはまらない	332	32.3	32.3	64.3
	あてはまらない	265	25.8	25.8	90.1
	わからない	102	9.9	9.9	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 物事を人並みには、うまくやれる。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	96	9.3	9.3	9.3
	どちらかというとあてはまる	434	42.3	42.3	51.6
	どちらかというとあてはまらない	343	33.4	33.4	85.0
	あてはまらない	122	11.9	11.9	96.9
	わからない	32	3.1	3.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5 自分には、自慢できるところがあまりない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	132	12.9	12.9	12.9
	どちらかというとあてはまる	306	29.8	29.8	42.6
	どちらかというとあてはまらない	356	34.7	34.7	77.3
	あてはまらない	176	17.1	17.1	94.4
	わからない	57	5.6	5.6	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

6 自分に対して肯定的である。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	76	7.4	7.4	7.4
	どちらかというとあてはまる	237	23.1	23.1	30.5
	どちらかというとあてはまらない	489	47.6	47.6	78.1
	あてはまらない	156	15.2	15.2	93.3
	わからない	69	6.7	6.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

7 だいたいにおいて、自分に満足している。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	49	4.8	4.8	4.8
	どちらかというとあてはまる	250	24.3	24.3	29.1
	どちらかというとあてはまらない	371	36.1	36.1	65.2
	あてはまらない	251	24.4	24.4	89.7
	わからない	106	10.3	10.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

8 もっと自分自身を尊敬できるようになりたい。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	137	13.3	13.3	13.3
	どちらかというとあてはまる	377	36.7	36.7	50.0
	どちらかというとあてはまらない	392	38.2	38.2	88.2
	あてはまらない	85	8.3	8.3	96.5
	わからない	36	3.5	3.5	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

9 自分は全くだめな人間だと思うことがある。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	146	14.2	14.2	14.2
	どちらかというとあてはまる	253	24.6	24.6	38.9
	どちらかというとあてはまらない	326	31.7	31.7	70.6
	あてはまらない	200	19.5	19.5	90.1
	わからない	102	9.9	9.9	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

10 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	93	9.1	9.1	9.1
	どちらかというとあてはまる	188	18.3	18.3	27.4
	どちらかというとあてはまらない	376	36.6	36.6	64.0
	あてはまらない	244	23.8	23.8	87.7
	わからない	126	12.3	12.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4　あなたは次の意見について、どのようにお考えでしょうか。

1 ほとんどの人は基本的に正直である。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	56	5.5	5.5	5.5
	どちらかと言えばそう思う	454	44.2	44.2	49.7
	どちらかと言えばそう思わない	392	38.2	38.2	87.8
	そう思わない	125	12.2	12.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 ほとんどの人は信頼できる。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	30	2.9	2.9	2.9
	どちらかと言えばそう思う	436	42.5	42.5	45.4
	どちらかと言えばそう思わない	425	41.4	41.4	86.8
	そう思わない	136	13.2	13.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 ほとんどの人は基本的に善良で親切である。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	45	4.4	4.4	4.4
	どちらかと言えばそう思う	534	52.0	52.0	56.4
	どちらかと言えばそう思わない	334	32.5	32.5	88.9
	そう思わない	114	11.1	11.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 ほとんどの人は他人を信頼している。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	24	2.3	2.3	2.3
	どちらかと言えばそう思う	385	37.5	37.5	39.8
	どちらかと言えばそう思わない	493	48.0	48.0	87.8
	そう思わない	125	12.2	12.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5 私は、人を信頼するほうである。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	82	8.0	8.0	8.0
	どちらかと言えばそう思う	555	54.0	54.0	62.0
	どちらかと言えばそう思わない	304	29.6	29.6	91.6
	そう思わない	86	8.4	8.4	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

6 たいていの人は、人から信頼された場合、同じようにその相手を信頼する。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	104	10.1	10.1	10.1
	どちらかと言えばそう思う	635	61.8	61.8	72.0
	どちらかと言えばそう思わない	226	22.0	22.0	94.0
	そう思わない	62	6.0	6.0	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5　あなたには、次のような人が何人くらいいらっしゃいますか。

1 つらいときや困ったときに相談にのってくれる人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	1～3人	607	59.1	59.1	59.1
	4～6人	165	16.1	16.1	75.2
	7～9人	18	1.8	1.8	76.9
	10人以上	22	2.1	2.1	79.1
	いない	156	15.2	15.2	94.3
	わからない	59	5.7	5.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 心配事や悩み事を聞いてくれる人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	1～3人	613	59.7	59.7	59.7
	4～6人	166	16.2	16.2	75.9
	7～9人	20	1.9	1.9	77.8
	10人以上	26	2.5	2.5	80.3
	いない	147	14.3	14.3	94.6
	わからない	55	5.4	5.4	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 気持ちが沈んだときに元気づけてくれる人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	1～3人	566	55.1	55.1	55.1
	4～6人	169	16.5	16.5	71.6
	7～9人	36	3.5	3.5	75.1
	10人以上	26	2.5	2.5	77.6
	いない	160	15.6	15.6	93.2
	わからない	70	6.8	6.8	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	1～3人	738	71.9	71.9	71.9
	4～6人	53	5.2	5.2	77.0
	7～9人	7	.7	.7	77.7
	10人以上	9	.9	.9	78.6
	いない	156	15.2	15.2	93.8
	わからない	64	6.2	6.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5 経済的に困ったときに助けてくれる人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	1～3人	639	62.2	62.2	62.2
	4～6人	45	4.4	4.4	66.6
	7～9人	4	.4	.4	67.0
	10人以上	6	.6	.6	67.6
	いない	207	20.2	20.2	87.7
	わからない	126	12.3	12.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

6 一緒に余暇や休日を楽しむ人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	1～3人	576	56.1	56.1	56.1
	4～6人	162	15.8	15.8	71.9
	7～9人	55	5.4	5.4	77.2
	10人以上	37	3.6	3.6	80.8
	いない	150	14.6	14.6	95.4
	わからない	47	4.6	4.6	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

7 なんとなくおしゃべりをしたり雑談などに付き合ってくれる人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	1～3人	497	48.4	48.4	48.4
	4～6人	182	17.7	17.7	66.1
	7～9人	91	8.9	8.9	75.0
	10人以上	97	9.4	9.4	84.4
	いない	118	11.5	11.5	95.9
	わからない	42	4.1	4.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

6　あなたと地域とのかかわりついて、おたずねします。

1 町内会、自治会活動に積極的に参加している。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	42	4.1	4.1	4.1
	どちらかというとあてはまる	145	14.1	14.1	18.2
	どちらかというとあてはまらない	281	27.4	27.4	45.6
	あてはまらない	559	54.4	54.4	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 地域のスポーツ団体やボランティア団体に積極的に参加している。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	35	3.4	3.4	3.4
	どちらかというとあてはまる	78	7.6	7.6	11.0
	どちらかというとあてはまらない	269	26.2	26.2	37.2
	あてはまらない	645	62.8	62.8	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 近所の小・中学生がどこの子どもか知っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	47	4.6	4.6	4.6
	どちらかというとあてはまる	182	17.7	17.7	22.3
	どちらかというとあてはまらない	218	21.2	21.2	43.5
	あてはまらない	580	56.5	56.5	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 祭りなど地域の行事によく参加している。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	53	5.2	5.2	5.2
	どちらかというとあてはまる	149	14.5	14.5	19.7
	どちらかというとあてはまらない	279	27.2	27.2	46.8
	あてはまらない	546	53.2	53.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

7　あなたは、近隣に次のような方がいらっしゃいますか。

1 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	たくさんいる	25	2.4	2.4	2.4
	数人いる	184	17.9	17.9	20.4
	1人2人いる	249	24.2	24.2	44.6
	いない	569	55.4	55.4	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 互いの家によく訪問し合う人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	たくさんいる	10	1.0	1.0	1.0
	数人いる	107	10.4	10.4	11.4
	1人2人いる	213	20.7	20.7	32.1
	いない	697	67.9	67.9	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 よくおすそ分けし合う人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	たくさんいる	10	1.0	1.0	1.0
	数人いる	109	10.6	10.6	11.6
	1人2人いる	228	22.2	22.2	33.8
	いない	680	66.2	66.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 家族ぐるみのつきあいをしている人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	たくさんいる	16	1.6	1.6	1.6
	数人いる	114	11.1	11.1	12.7
	1人2人いる	207	20.2	20.2	32.8
	いない	690	67.2	67.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5 よく一緒に外出するような関係の人。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	たくさんいる	23	2.2	2.2	2.2
	数人いる	147	14.3	14.3	16.6
	1人2人いる	254	24.7	24.7	41.3
	いない	603	58.7	58.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

8　あなたの人間関係の満足度について、おたずねします。

1 同居している家族との関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	満足している	294	28.6	28.6	28.6
	どちらかと言えば満足している	286	27.8	27.8	56.5
	どちらとも言えない	134	13.0	13.0	69.5
	どちらかと言えば不満である	59	5.7	5.7	75.3
	不満である	63	6.1	6.1	81.4
	あてはまらない	191	18.6	18.6	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 友人との関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	満足している	199	19.4	19.4	19.4
	どちらかと言えば満足している	408	39.7	39.7	59.1
	どちらとも言えない	280	27.3	27.3	86.4
	どちらかと言えば不満である	56	5.5	5.5	91.8
	不満である	34	3.3	3.3	95.1
	あてはまらない	50	4.9	4.9	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 近所の人たちとの関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	満足している	90	8.8	8.8	8.8
	どちらかと言えば満足している	278	27.1	27.1	35.8
	どちらとも言えない	438	42.6	42.6	78.5
	どちらかと言えば不満である	70	6.8	6.8	85.3
	不満である	45	4.4	4.4	89.7
	あてはまらない	106	10.3	10.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 職場の同僚との関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	満足している	100	9.7	9.7	9.7
	どちらかと言えば満足している	268	26.1	26.1	35.8
	どちらとも言えない	300	29.2	29.2	65.0
	どちらかと言えば不満である	66	6.4	6.4	71.5
	不満である	56	5.5	5.5	76.9
	あてはまらない	237	23.1	23.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5 職場の上司との関係

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	満足している	83	8.1	8.1	8.1
	どちらかと言えば満足している	226	22.0	22.0	30.1
	どちらとも言えない	309	30.1	30.1	60.2
	どちらかと言えば不満である	76	7.4	7.4	67.6
	不満である	85	8.3	8.3	75.9
	あてはまらない	248	24.1	24.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

9　いのちに関するあなたのお考えについて、おたずねします。

1 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	356	34.7	34.7	34.7
	ややそう思う	448	43.6	43.6	78.3
	あまりそう思わない	124	12.1	12.1	90.4
	そう思わない	54	5.3	5.3	95.6
	わからない	45	4.4	4.4	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 自殺せずに生きていれば良いことがある。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	293	28.5	28.5	28.5
	ややそう思う	415	40.4	40.4	68.9
	あまりそう思わない	156	15.2	15.2	84.1
	そう思わない	69	6.7	6.7	90.8
	わからない	94	9.2	9.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 責任を取って自殺することは仕方がない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	45	4.4	4.4	4.4
	ややそう思う	111	10.8	10.8	15.2
	あまりそう思わない	246	24.0	24.0	39.1
	そう思わない	529	51.5	51.5	90.7
	わからない	96	9.3	9.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	78	7.6	7.6	7.6
	ややそう思う	211	20.5	20.5	28.1
	あまりそう思わない	219	21.3	21.3	49.5
	そう思わない	407	39.6	39.6	89.1
	わからない	112	10.9	10.9	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5 自殺は絶対にすべきではない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	374	36.4	36.4	36.4
	ややそう思う	268	26.1	26.1	62.5
	あまりそう思わない	176	17.1	17.1	79.6
	そう思わない	101	9.8	9.8	89.5
	わからない	108	10.5	10.5	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

6 人工妊娠中絶は認められない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	77	7.5	7.5	7.5
	ややそう思う	184	17.9	17.9	25.4
	あまりそう思わない	367	35.7	35.7	61.1
	そう思わない	238	23.2	23.2	84.3
	わからない	161	15.7	15.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

7 死刑は刑罰として妥当だ。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	429	41.8	41.8	41.8
	ややそう思う	293	28.5	28.5	70.3
	あまりそう思わない	151	14.7	14.7	85.0
	そう思わない	46	4.5	4.5	89.5
	わからない	108	10.5	10.5	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

8 社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	そう思う	428	41.7	41.7	41.7
	ややそう思う	316	30.8	30.8	72.4
	あまりそう思わない	144	14.0	14.0	86.5
	そう思わない	43	4.2	4.2	90.7
	わからない	96	9.3	9.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

１０　最後に、あなたの暮らしについて、おたずねします。

1 成人の子どもと同居している。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	102	9.9	9.9	9.9
	あてはまらない	925	90.1	90.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

2 未成年の子どもと同居している。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	374	36.4	36.4	36.4
	あてはまらない	653	63.6	63.6	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

3 配偶者と同居している。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	585	57.0	57.0	57.0
	あてはまらない	442	43.0	43.0	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

4 同居していない成人の子どもがいる。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	101	9.8	9.8	9.8
	あてはまらない	926	90.2	90.2	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

5 同居していない未成年の子どもがいる。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	23	2.2	2.2	2.2
	あてはまらない	1004	97.8	97.8	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

6 同居していない配偶者がいる。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	16	1.6	1.6	1.6
	あてはまらない	1011	98.4	98.4	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

7 一人暮らしである。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	184	17.9	17.9	17.9
	あてはまらない	843	82.1	82.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

8 恋人がいる。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	130	12.7	12.7	12.7
	あてはまらない	897	87.3	87.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

9 ペットを飼っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	あてはまる	268	26.1	26.1	26.1
	あてはまらない	759	73.9	73.9	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	男性	519	50.5	50.5	50.5
	女性	508	49.5	49.5	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

世代

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	20～24歳	85	8.3	8.3	8.3
	25～29歳	127	12.4	12.4	20.6
	30～34歳	111	10.8	10.8	31.5
	35～39歳	149	14.5	14.5	46.0
	40～44歳	170	16.6	16.6	62.5
	45～49歳	134	13.0	13.0	75.6
	50～54歳	141	13.7	13.7	89.3
	55～59歳	110	10.7	10.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

未既婚

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	未婚	426	41.5	41.5	41.5
	既婚	601	58.5	58.5	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

子どもの有無

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	子どもなし	517	50.3	50.3	50.3
	子どもあり	510	49.7	49.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

職業

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	公務員	38	3.7	3.7	3.7
	経営者・役員	19	1.9	1.9	5.6
	会社員(事務系)	134	13.0	13.0	18.6
	会社員(技術系)	119	11.6	11.6	30.2
	会社員(その他)	145	14.1	14.1	44.3
	自営業	63	6.1	6.1	50.4
	自由業	21	2.0	2.0	52.5
	専業主婦(主夫)	199	19.4	19.4	71.9
	パート・アルバイト	171	16.7	16.7	88.5
	学生	36	3.5	3.5	92.0
	その他	34	3.3	3.3	95.3
	無職	48	4.7	4.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

学生種別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	大学生	32	3.1	3.1	3.1
	大学院生	2	.2	.2	3.3
	その他学生	2	.2	.2	3.5
	無回答	991	96.5	96.5	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

都道府県

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	北海道	43	4.2	4.2	4.2
	青森県	10	1.0	1.0	5.2
	岩手県	7	.7	.7	5.8
	宮城県	12	1.2	1.2	7.0
	秋田県	11	1.1	1.1	8.1
	山形県	6	.6	.6	8.7
	福島県	7	.7	.7	9.3
	茨城県	16	1.6	1.6	10.9
	栃木県	9	.9	.9	11.8
	群馬県	8	.8	.8	12.6
	埼玉県	57	5.6	5.6	18.1
	千葉県	58	5.6	5.6	23.8
	東京都	142	13.8	13.8	37.6
	神奈川県	87	8.5	8.5	46.1
	新潟県	22	2.1	2.1	48.2
	富山県	8	.8	.8	49.0
	石川県	11	1.1	1.1	50.0
	福井県	6	.6	.6	50.6
	山梨県	3	.3	.3	50.9
	長野県	12	1.2	1.2	52.1
	岐阜県	18	1.8	1.8	53.8
	静岡県	34	3.3	3.3	57.2
	愛知県	74	7.2	7.2	64.4
	三重県	12	1.2	1.2	65.5
	滋賀県	7	.7	.7	66.2
	京都府	15	1.5	1.5	67.7
	大阪府	106	10.3	10.3	78.0
	兵庫県	49	4.8	4.8	82.8
	奈良県	15	1.5	1.5	84.2
	和歌山県	4	.4	.4	84.6
	鳥取県	4	.4	.4	85.0
	島根県	1	.1	.1	85.1
	岡山県	8	.8	.8	85.9
	広島県	22	2.1	2.1	88.0
	山口県	14	1.4	1.4	89.4
	徳島県	4	.4	.4	89.8
	香川県	1	.1	.1	89.9
	愛媛県	14	1.4	1.4	91.2
	高知県	7	.7	.7	91.9
	福岡県	36	3.5	3.5	95.4
	佐賀県	5	.5	.5	95.9
	長崎県	7	.7	.7	96.6
	熊本県	9	.9	.9	97.5
	大分県	5	.5	.5	98.0
	宮崎県	9	.9	.9	98.8
	鹿児島県	9	.9	.9	99.7
	沖縄県	3	.3	.3	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

地域

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	北海道	43	4.2	4.2	4.2
	東北地方	53	5.2	5.2	9.3
	関東地方	377	36.7	36.7	46.1
	中部地方	200	19.5	19.5	65.5
	近畿地方	196	19.1	19.1	84.6
	中部地方	49	4.8	4.8	89.4
	四国地方	26	2.5	2.5	91.9
	九州地方	83	8.1	8.1	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

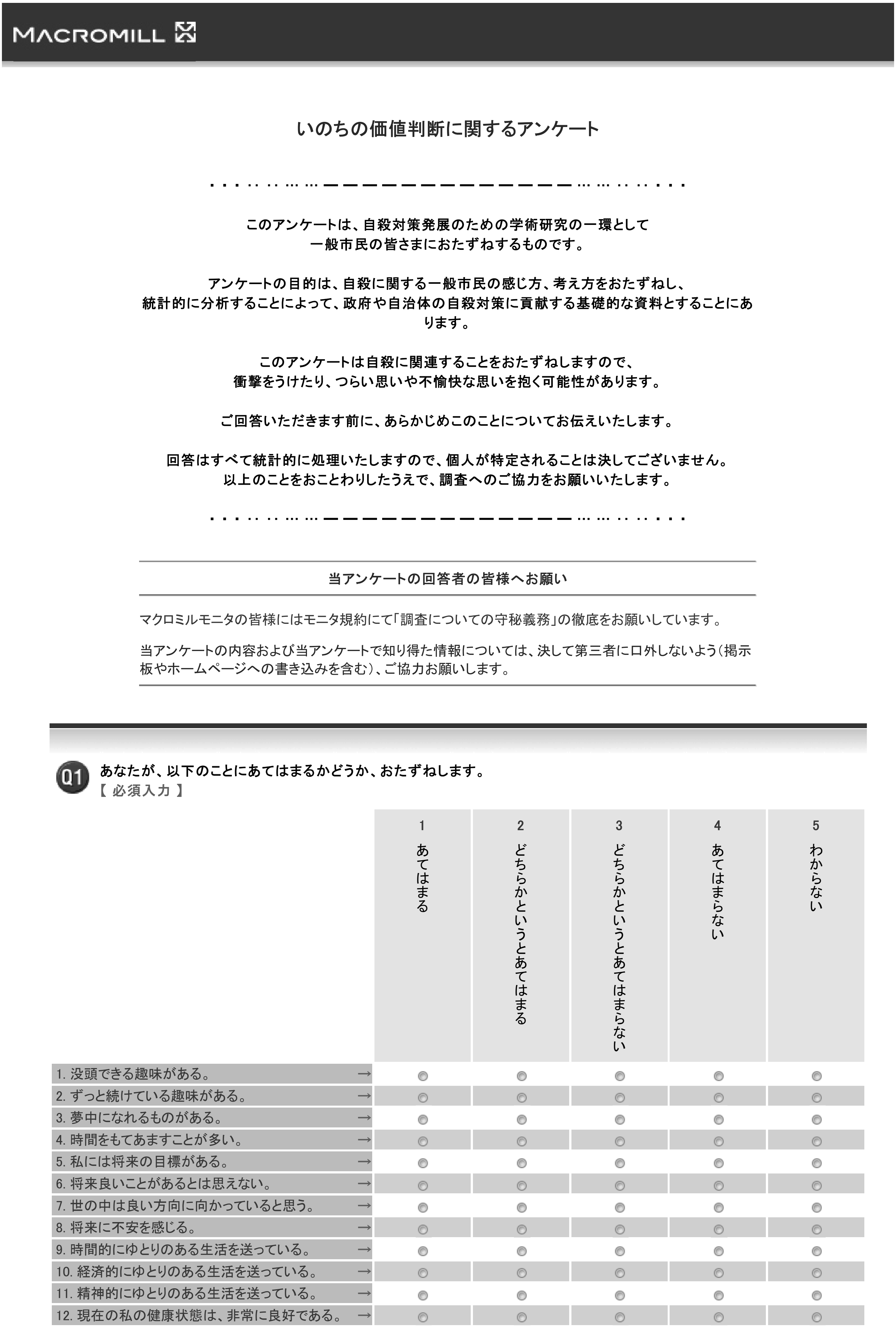
世帯年収

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	200万円	71	6.9	6.9	6.9
	200～400万未満	209	20.4	20.4	27.3
	400～600万未満	234	22.8	22.8	50.0
	600～800万未満	133	13.0	13.0	63.0
	800～1000万未満	69	6.7	6.7	69.7
	1000～1200万未満	46	4.5	4.5	74.2
	1200～1500万未満	32	3.1	3.1	77.3
	1500～2000万未満	11	1.1	1.1	78.4
	2000万未満	9	.9	.9	79.3
	わからない	100	9.7	9.7	89.0
	無回答	113	11.0	11.0	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

個人年収

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数	200万円	379	36.9	36.9	36.9
	200～400万未満	202	19.7	19.7	56.6
	400～600万未満	136	13.2	13.2	69.8
	600～800万未満	70	6.8	6.8	76.6
	800～1000万未満	25	2.4	2.4	79.1
	1000～1200万未満	12	1.2	1.2	80.2
	1200～1500万未満	7	.7	.7	80.9
	1500～2000万未満	4	.4	.4	81.3
	2000万未満	2	.2	.2	81.5
	わからない	70	6.8	6.8	88.3
	無回答	120	11.7	11.7	100.0
	合計	1027	100.0	100.0	

調　　査　　票



いのちの価値判断に関するアンケート

……

このアンケートは、自殺対策発展のための学術研究の一環として
一般市民の皆さまにおたずねするものです。

アンケートの目的は、自殺に関する一般市民の感じ方、考え方をおたずねし、
統計的に分析することによって、政府や自治体の自殺対策に貢献する基礎的な資料とすることにあります。

このアンケートは自殺に関連することをおたずねしますので、
衝撃をうけたり、つらい思いや不愉快な思いを抱く可能性があります。

ご回答いただきます前に、あらかじめこのことについてお伝えいたします。

回答はすべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることは決してございません。
以上のことをおことわりしたうえで、調査へのご協力をお願いいたします。

……

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクロミルモニタの皆様にはモニタ規約にて「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう(掲示板やホームページへの書き込みを含む)、ご協力お願いします。

Q1 あなたが、以下のことにあてはまるかどうか、おたずねします。
【 必須入力 】

	1 あてはまる	2 どちらかというとあてはまる	3 どちらかというとあてはまらない	4 あてはまらない	5 わからない
1. 没頭できる趣味がある。 →	○	○	○	○	○
2. ずっと続けている趣味がある。 →	○	○	○	○	○
3. 夢中になれるものがある。 →	○	○	○	○	○
4. 時間をもてあますことが多い。 →	○	○	○	○	○
5. 私には将来の目標がある。 →	○	○	○	○	○
6. 将来良いことがあるとは思えない。 →	○	○	○	○	○
7. 世の中は良い方向に向かっていると思う。 →	○	○	○	○	○
8. 将来に不安を感じる。 →	○	○	○	○	○
9. 時間的にゆとりのある生活を送っている。 →	○	○	○	○	○
10. 経済的にゆとりのある生活を送っている。 →	○	○	○	○	○
11. 精神的にゆとりのある生活を送っている。 →	○	○	○	○	○
12. 現在の私の健康状態は、非常に良好である。 →	○	○	○	○	○

ここで改ページ

Q2 以下のそれぞれの項目に、あなたのお考えはどの程度あてはまりますか。
【 必須入力 】

	1 あてはまる	2 どちらかというとあてはまる	3 どちらとも言えない	4 どちらかというとあてはまらない	5 あてはまらない
1. 自分のことで精一杯で、他人のことを考えるだけの余裕はない。 →	○	○	○	○	○
2. 結局、人のことは自分とは関係ないことだ。 →	○	○	○	○	○
3. 自分ひとりが努力しても世の中はよくならない。 →	○	○	○	○	○
4. ボランティア活動や奉仕活動などに興味や関心はない。 →	○	○	○	○	○
5. 社会問題は自分の生活とはまったく関係ないことだと思う。 →	○	○	○	○	○
6. 政治や社会の問題など、難しいことを考えるのはめんどうである。 →	○	○	○	○	○
7. 何事も深く考えず、その場しのぎで過ごしている。 →	○	○	○	○	○
8. 他人のことで自分の時間をとられたくない。 →	○	○	○	○	○
9. 自分が損をしてまで、皆のために尽くすのはバカげたことだ。 →	○	○	○	○	○

ここで改ページ

Q3 次の特徴のおのおのについて、あなた自身にどの程度あてはまるかをお答え下さい。
他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自身をどのように思っているかを、ありのままにお答え下さい。
【 必須入力 】

	1 あてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらとも言えない	4 ややあてはまらない	5 あてはまらない
1. 少なくとも人並みには、価値のある人間である。 →	○	○	○	○	○
2. 色々な良い素質をもっている。 →	○	○	○	○	○
3. 敗北者だと思うことがよくある。 →	○	○	○	○	○
4. 物事を人並みには、うまくやれる。 →	○	○	○	○	○
5. 自分には、自慢できるところがあまりない。 →	○	○	○	○	○
6. 自分に対して肯定的である。 →	○	○	○	○	○
7. だいたいにおいて、自分に満足している。 →	○	○	○	○	○
8. もっと自分自身を尊敬できるようになりたい。 →	○	○	○	○	○
9. 自分は全くだめな人間だと思うことがある。 →	○	○	○	○	○
10. 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う。 →	○	○	○	○	○

ここで改ページ

Q4 あなたは次の意見について、どのようにお考えでしょうか。
【 必須入力 】

	1 そう思う	2 どちらかと言えばそう思う	3 どちらかと言えばそう思わない	4 そう思わない
1. ほとんどの人は基本的に正直である。 →	○	○	○	○
2. ほとんどの人は信頼できる。 →	○	○	○	○
3. ほとんどの人は基本的に善良で親切である。 →	○	○	○	○
4. ほとんどの人は他人を信頼している。 →	○	○	○	○
5. 私は、人を信頼するほうである。 →	○	○	○	○
6. たいていの人は、人から信頼された場合、同じようにその相手を信頼する。 →	○	○	○	○

ここで改ページ

Q5 あなたには、次のような人が何人くらいいらっしゃいますか。
【 必須入力 】

	1 1∫3人	2 4∫6人	3 7∫9人	4 10人以上	5 いない	6 わからない
1. つらいときや困ったときに相談にのってくれる人。 →	○	○	○	○	○	○
2. 心配事や悩み事を聞いてくれる人。 →	○	○	○	○	○	○
3. 気持ちが沈んだときに元気づけてくれる人。 →	○	○	○	○	○	○
4. 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人。 →	○	○	○	○	○	○
5. 経済的に困ったときに助けてくれる人。 →	○	○	○	○	○	○
6. 一緒に余暇や休日を楽しむ人。 →	○	○	○	○	○	○
7. なんとなくおしゃべりをしたり雑談などに付き合ってくれる人。 →	○	○	○	○	○	○

ここで改ページ

Q6 **あなたと地域とのかかわりついて、おたずねします。**
【 必須入力 】

	1 あてはまる	2 どちらかというとあてはまる	3 どちらかというとあてはまらない	4 あてはまらない
1. 町内会、自治会活動に積極的に参加している。 →	○	○	○	○
2. 地域のスポーツ団体やボランティア団体に積極的に参加している。 →	○	○	○	○
3. 近所の小・中学生がどこの子どもか知っている。 →	○	○	○	○
4. 祭りなど地域の行事によく参加している。 →	○	○	○	○

ここで改ページ

Q7 **あなたは、近隣に次のような方がいらっしゃいますか。**
【 必須入力 】

	1 たくさんいる	2 数人いる	3 一人二人いる	4 いない
1. 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人。 →	○	○	○	○
2. 互いの家によく訪問し合う人。 →	○	○	○	○
3. よくおすそ分けし合う人。 →	○	○	○	○
4. 家族ぐるみのつきあいをしている人。 →	○	○	○	○
5. よく一緒に外出するような関係の人。 →	○	○	○	○

ここで改ページ

Q8 あなたの人間関係の満足度について、おたずねします。
【 必須入力 】

	1 満足している	2 どちらかと言えば満足している	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えば不満である	5 不満である	6 あてはまらない
1. 同居している家族との関係 →	○	○	○	○	○	○
2. 友人との関係 →	○	○	○	○	○	○
3. 近所の人たちとの関係 →	○	○	○	○	○	○
4. 職場の同僚との関係 →	○	○	○	○	○	○
5. 職場の上司との関係 →	○	○	○	○	○	○

ここで改ページ

Q9 いのちに関するあなたのお考えについて、おたずねします。
【 必須入力 】

	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	5 わからない
1. 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである。 →	○	○	○	○	○
2. 自殺せずに生きていれば良いことがある。 →	○	○	○	○	○
3. 責任を取って自殺することは仕方がない。 →	○	○	○	○	○
4. どうしようもない困難にあった人は、自殺をしてもやむを得ないときもある。 →	○	○	○	○	○
5. 自殺は絶対にすべきではない。 →	○	○	○	○	○
6. 人工妊娠中絶は認められない。 →	○	○	○	○	○
7. 死刑は刑罰として妥当だ。 →	○	○	○	○	○
8. 社会の秩序を守るためには、死刑はやむを得ない。 →	○	○	○	○	○

ここで改ページ

Q10 **最後に、あなたの暮らしについて、おたずねします。**
※「子ども」に関しては、ご自身のお子さまに限ってお答えください。
【 必須入力 】

	1 あてはまる	2 あてはまらない
1. 成人の子どもと同居している。 →	○	○
2. 未成年の子どもと同居している。 →	○	○
3. 配偶者と同居している。 →	○	○
4. 同居していない成人の子どもがいる。 →	○	○
5. 同居していない未成年の子どもがいる。 →	○	○
6. 同居していない配偶者がいる。 →	○	○
7. 一人暮らしである。 →	○	○
8. 恋人がいる。 →	○	○
9. ペットを飼っている。 →	○	○

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
回答もれがないか確認し、よろしければ「送信」ボタンをクリックしてください。

送　信

平成 27 年度　社会調査実習報告書　第 4 号

発　行：2016 年 3 月 31 日
発行者：淑徳大学コミュニティ政策学部
〒260-8701
千葉市中央区大巌寺町 200
TEL　043－265－7331
印　刷：株式会社　正文社